

親と子が共に育つ 子育ての支援事例集



平成 28 年 3 月

岩手県立総合教育センター

はじめに

現在、幼稚園等多くの幼児教育にかかわる施設において、「子育ての支援」が行われています。

しかし、はたしてそれが本当に子育てをしている親にとっての支援となっているのでしょうか。そして、これから育っていく子どもたちのためになっているのでしょうか。

「子育ての支援」という名の下に、親が育つ機会を奪ってしまったり、本来主役になるはずの子どもが大人の都合でないがしろにされたりしている例は枚挙に暇がありません。

そこで、子育ての支援を通して、親も子も共に育つ…そんな姿を願い、県内の研究協力園の実践事例を収集し、整理しました。

この事例集では、具体的な事例を通して、各園が子育ての支援についてどのような願いをもち、どのように進めてきたかが分かるようになっています。

園の状況はそれぞれ異なりますので、実践事例をそのまま皆さんの園に当てはめることは難しいかも知れませんが、子育ての支援を行うに当たっての工夫とポイントを整理してありますので、皆さんの園だったらどういうやり方が効果的なのか、ということを改めて検討するきっかけになればと思います。



目次



はじめに

I 理論編

1	子育ての支援って？	1
2	幼稚園等における子育ての支援の分類	1
3	育成型支援の必要性	1
4	育成型支援の要素	3
5	育成型支援の類型	3

II 実践事例編

1	情報発信型支援	4
(1)	幼児期の教育の理解を深める計画的な園だより	
	＜花巻市立花巻幼稚園＞	5
(2)	保護者の知的好奇心を喚起する園だより	
	＜岩手大学教育学部附属幼稚園＞	9
(3)	保護者の声を生かした園だより	
	＜花巻市立湯本保育園＞	12
(4)	育ちのプロセスの見える化を図る玄関掲示物（ドキュメンテーション）	
	＜九戸村立幼稚園ひめほたるこども園＞	14
(5)	発達特性と子育てのおもしろさを知る講演会	
	＜九戸村立幼稚園ひめほたるこども園＞	16
(6)	幼児理解を広げ深める参加型の保護者会	
	＜岩手大学教育学部附属幼稚園＞	18
2	行事・体験型支援	22
(1)	保護者の子育てに対する不安感を安心感に変えるお弁当参観と懇談会	
	＜盛岡市立太田幼稚園＞	23
(2)	子どもの見方を深める「ニコニコせんせい体験」	
	＜花巻市立花巻幼稚園＞	28
(3)	子ども理解を深める「ニコニコせんせい体験」・個別面談	
	＜花巻市立湯本保育園＞	31
(4)	多様な視点から幼児理解を深め、広げる保育参加・ミーティング	
	＜岩手大学教育学部附属幼稚園＞	34
(5)	園と共に子育てをする意識を高める園行事「ちびっこ夏祭り」	
	＜花巻市立湯本保育園＞	42

(6) 親子のかかわりを深める親子絵本貸出	
	＜九戸村立幼稚園ひめほたるこども園＞ 45
3 相談・援助型支援	50
(1) 個人差に配慮した送迎時の対応及び連絡帳の活用	
	＜盛岡市立太田幼稚園＞ 51
(2) 育ちを共有し信頼関係を構築する連絡帳の活用	
	＜岩手大学教育学部附属幼稚園＞ 53
(3) 保護者との信頼関係を深め、保護者の不安を和らげる組織的な援助	
	＜花巻市立花巻幼稚園＞ 55
4 居場所・交流型支援	60
(1) 保護者の主体的な取組を促し、子育ての喜びの実感につなげる茶話会	
	＜花巻市立花巻幼稚園＞ 61
(2) 子どもの成長や子育てを振り返る機会となる誕生会・談話会	
	＜岩手大学教育学部附属幼稚園＞ 66
(3) 保護者同士が交流し、つながる場としてのクラブ活動	
	＜岩手大学教育学部附属幼稚園＞ 70
引用文献・参考文献	73

おわりに



I 理論編



1 子育ての支援って？

子育ての支援とは何かについて、柏女霊峰氏（2003）は「児童が生まれ、育ち、生活する基盤である親及び家庭における児童養育の機能に対し、家庭以外の私的、公的、社会的機能が支援的にかかわること」、太田光洋氏（2002）は「①親を子育ての主体と位置づけ、②社会のすべての人が協力することによって、③親が安心して子育てすることを支え、同時に④子どもの健やかな成長を促すもの」、大豆生田啓友氏（2006）は「子育てという営みあるいは養育機能に対して、私的・社会的・公的機能が支援的にかかわることにより、安心して子どもを産み育てる環境を作るとともに、子どもの健やかな育ちを促すことを目的とする営みである」としています。

現在、幼稚園等の幼児教育施設以外でも、たくさんの「子育ての支援」と言われるものが行われています。この事例集で取り上げるのは、幼稚園等に在籍している園児の保護者を対象とした子育ての支援です。

2 幼稚園等における子育ての支援の分類

幼稚園・こども園・保育所（以下、幼稚園等とする）における子育ての支援の分類を、蒲原基道氏（2006）による分類を参考に、以下のように2つにまとめました。

幼稚園等における子育ての支援の分類

分類	内容	具体例
育成型支援	保護者が子育てに意義を感じ、前向きに取り組むようになるための精神的な支援	園での保育参加・保護者の学びの場の提供等
代替型支援	保護者の子育ての負担感を物理的に減らす支援	預かり保育・延長保育

3 育成型支援の必要性

(1) 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』での考え方から

幼稚園等においては、子どもに対する教育・保育とともに、保護者に対する子育ての支援を行うことも重要な役目とされています。

子育ての支援全体としては、預かり保育や延長保育のような代替型の支援も必要です。しかし、『幼稚園教育要領』によると、「家庭との緊密な連携を図るようにすること。その際、情報交換の機会を設けたりするなど、保護者が、幼稚園と共に幼児を育てるという意識が高まるようにすること。」とあり、『幼稚園教育要領解説』にも、同項について「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動は、家庭の教育力を損なうものであってはならない。そのため、保護者との情報交換などを通じて、教育課程に係る教育時間の終了後に行う教育活動の趣旨や家庭における教育の重要性を保護者に十分に理解してもらい、保護者が、幼稚園と共に幼児を育てるという意識

が高まるようにすることが大切である。」とあるように、子育てを代替する形の預かり保育であっても、保護者の幼児期の教育に対する理解を促すことを意識して行うことについて明記されているのです。

(2) 現在の国の動向から

平成 27 年 4 月 1 日に始まった「子ども・子育て支援新制度」の目指すものは、①待機児童の解消、②少子化の中での幼児教育の確保、③質の高い幼児教育、④子育て支援の拡充です。このような内容であるにもかかわらず、世の中の目の多くは、待機児童の解消に向いている傾向があり、幼児を今よりも「預けやすくなる」ことが注目されています。つまり、育児を代替する機能としての子育ての支援への期待が保護者の間で高まっているということになります。しかし、幼稚園等でもっとも大切にしたいことは、質の高い幼児教育を展開すること、またその価値を保護者に理解してもらうことだと考えます。

また、「幼稚園における子育て支援は、『親と子が共に育つ』という観点から実施し、保護者の子育てに対する意欲を引き出し、その教育力を向上させるようにすることが大切である。つまり、保護者が、子育てに対する不安やストレスを解消し、その喜びや生きがいを見出すことができ、子どもによりよい育ちを実現するよう、子育て支援を実施する必要がある。」(子育て支援に関する研修プログラム作成協力者会議, 2008) とあるように、幼稚園等における子育ての支援は、単に保護者の子育てを代替するものではなく、保護者の幼児期の教育に対する理解力を育成するものであることが望ましいと考えます。

さらに、「子供の発達の連続性を踏まえた幼児教育を充実するために、子供一人一人の多様性への配慮や学校と家庭、地域との連携強化の観点から、幼稚園における子育ての支援等について、具体的な留意事項の在り方等に関する検討を行う必要がある」(中教審論点整理, 2016) と示されており、よりよい幼児教育実現のために、子育ての支援をどのように進めていくことがよいのかを考えていくことは、次期幼稚園教育要領改訂に向けても大きな課題の一つと言えます。

(3) 保護者の状況とそれに関わる幼稚園等の現状から

『幼稚園教育要領解説』に「幼稚園教育が目指しているものは、幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになることではなく、幼児が自ら周囲の環境に働きかけて、その幼児なりに試行錯誤を繰り返し、自ら発達に必要なものを獲得しようとする意欲や生活を営む態度、豊かな心を育むことである。」とあります。しかし、幼児期から文字や数など生活と乖離した概念的な学習を求める保護者に対し、幼稚園等が幼児期の教育の意義を適切に伝えられていない状況があります。そして、保護者は、子育ての煩わしさからは逃れたいけれど、早く“いい子”に育てたいという思いは強くもっているという状況になっています。

子育ての支援が、このような親の都合のみに左右されるものではなく、幼児がよりよく育つため、つまり、幼児が生きる力の基礎を育み、保護者が子育ての意義を感じられるものとなることが重要であると考えます。

○幼児の生きる力の基礎を育むことにつながる支援とは

- ・ 幼児との愛着関係が深まるような支援になっている
- ・ 幼児期の発達を理解し、その発達に即した子育てを進める意欲が喚起できる支援になっている
- ・ 幼児が本来もっている主体性、能動性を大事にしようとする態度が養われる支援になっている

4 育成型支援の要素

A	園と保護者の信頼関係の構築
B	保護者の幼児期の教育に関する理解を深めるための園からの働きかけ (学習・体験・相談の機会の保障, 伝達・説明)
C	保護者の幼児への共感的関心, 子育ての喜びの実感
D	保育者等他者の幼児へのかかわりやまなざしによる保護者の発達の見方の学び (モデリング)

『幼稚園教育要領解説』及び那須信樹氏(2014)、伊藤良高氏(2014)、井桁容子氏(2015)の考えを参考に、上記4点を要素として考えました。

事例集に取り上げた子育ての支援の事例は、この4点を相互に関連させて、保護者が子育てに意義を感じ、積極的に子育てをしようとする状態を作り出そうと試みたものです。

5 育成型支援の類型

育成型支援の要素のA～Dの実現のための子育ての支援の在り方を、那須信樹氏(2014)による4つの分類(情報発信型支援, 行事型支援, 相談・助言型支援, 居場所・交流型支援)を参考とした子育ての支援の類型を作成し、それに基づいた実践を各園に依頼し、検証しました。

那須信樹氏の分類は、未就園児や地域も視野に入れた子育ての支援を対象とした分類であるため、氏の分類を参考にして、在園児を対象とした子育ての支援の類型を作成しました。

幼稚園等における在園児の保護者に対する育成型支援の類型

類型	ねらいと内容	実践例
支援 情報 発信 型	<ul style="list-style-type: none"> 園生活や保育内容・幼児の学びや育ちを可視化する(要素A, B) 保育の意図や子育てに有益な情報を発信する(要素B, D) 	<ul style="list-style-type: none"> 通信(園だより, 学年だより, 学級だより, 保健だより, 給食だより等) ホームページ 連絡帳 掲示物 保護者会 子育て講演会 等
支援 行事 ・体験 型	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの育ちの連続性と園と保護者の連携を意識化(要素A, C, D) 我が子と共に他の幼児を見ることで, 幼児理解を促す(要素B) 	<ul style="list-style-type: none"> 保育参加 保育参観 親子遠足 運動会 発表会 等
支援 相談 ・援助 型	<ul style="list-style-type: none"> 保護者個人の相談・助言など悩みを解決したり, 幼児理解を深めたりし, 保護者の不安感を解消する(要素B, D) 園の職員との信頼関係をつくる(要素A) 	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談 家庭訪問 送迎時の会話 連絡帳 電話による相談 等
支援 居場所 ・交流 型	<ul style="list-style-type: none"> 園内サークル等の活動を通して保護者同士の親睦を深める(要素B) 活動を通して保育に参加する(要素C) 保育参加後や保護者会時にグループでのディスカッションで考えや視野を広げる(要素B, D) 	<ul style="list-style-type: none"> 園内サークル 保護者会 保育参加後のミーティング 茶話会 談話会 等

Ⅱ 実践事例編

1 情報発信型支援

支援の例

- 通信（園だより，学級だより，保健だより，給食だより等）
- ホームページ ○連絡帳 ○掲示物 ○保護者会
- 子育て講演会 等



保護者にとってのメリット

- ・ 園での幼児の生活や学びを具体的にイメージできます
- ・ 幼児の育ちを理解する一助となります
- ・ 得た情報をもとに，自分の子育てや
幼児へのかかわり方について軌道修正することができます



支えとなる保育の質を保つための視点

- ・ その時期毎の発達観が園内で共有されていること
- ・ 幼児の姿の読み取り，及び援助が適切であること

行事等の事実の羅列だけでなく，幼児の経験内容や育ちの見通し，保育者の意図的なかかわりなど教育的な観点からの考察をわかりやすく添えているか。

園からの一方通行ではなく，保護者の声を拾う等双方向的なものとなるよう工夫しているか。

チェック

(1) 幼児期の教育の理解を深める計画的な園だより

<花巻市立花巻幼稚園>



要素B・D
(伝達・説明, 発達の見方)

◇ 園内で園だよりの意義や内容を共有する

- ・ 毎月の行事のお知らせの役割とともに、園生活の教育的意義を発信することを確認する。園生活の中での具体的なわかりやすいエピソードを用い、教師のかかわりや環境の工夫の意味、それによる子どもたちの姿の変容について取り上げ、解説を加える等、園の教育を理解してもらえるよう工夫し、親と教師が子育ての喜びを共感できるように努める。
- ・ 次項に示す年間指導計画の共通理解を図り、保育記録を基に、保護者に発信したい具体例を提供する。

◇ 年間を見通し内容を吟味する

- ・ 幼児の実際の育ちの姿と園の教育課程に基づいて、保護者にどの時期にどんな内容を伝えていくと、より幼稚園教育に関する理解が深まるのかを検討し、年間計画を立てる。

平成 27 年度 園だより年間計画

- 1 毎月の行事 (職員会議で確認された行事を発信…発行日の前日には仕上げ、日時、内容を確認後、印刷…誤りや訂正を極力なくし、信頼関係を築いていく)
- 2 各月のテーマに沿った教育的意義を発信
(わかりやすいエピソード…先生方のかかわりや環境の工夫、子ども達の変容の姿…を交えながら、園の教育を理解していただけるよう工夫し、親と職員が子育ての喜びを共感できるように努めていく)

月	園だより	食育だより
4月	一人一人の子どもへの育ちを受け止めることの大切さ(その子のよさ、緩やかな育ち、育ちの節目等)	食事は生活リズムから 基本は家庭…早起き・早寝・朝ごはん
5月	幼稚園教育は環境を通して行われる 今年度の教育目標・重点目標の解説	先生や友達と一緒に食べることの意味 集団生活で育つもの
6月	知的好奇心を刺激する環境(今年度の重点「人とかかわる環境」の工夫から)	手作り弁当と副食給食の意味 給食参観の意図
7月	一学期の成長	食べたことのない、苦手な物も一口は食べてみようとする意欲をもつような心の育ちを促す…食事に限らず、様々な体験へのつながりや意欲付け…園内研究主題『しなやかな心と体』へ
8月	重点目標『心と体が健康な子』から(今年度の重点「戸外で十分に体を動かす」一学期教育評価より運動会に向けて)	(園での子どもたちの様子から…夏休みに向けて家庭でできることを発信)

資料 1

9月		収穫の喜び (自分たちで育てた ものを食す感動)	カレーパーティーに かかわって
10月	重点目標『自立心をもって生活する子』から (「自分の気持ちをコントロールする力をも つ」一学期教育評価より二学期に育てたい力)	資料2	焼き芋にかかわって
11月	重点目標『感性の豊かな子』から(今年度の重 点「絵本や物語等に親しむ」一学期教育評価よ り発表会に向けて)		おにぎりパーティー にかかわって
12月	保護者アンケート 二学期の成長	食事のマナーやしつけで育つこと (日本文化のよさ…冬休みに向けて…箸の 持ち方や姿勢等)	
1月	学校評価公表(保護者アンケート結果も含め)		
2月	総括目標『かながえる子』から 協同的学びを育む環境(「人とかかわる環境」 の工夫から)	園長先生とのランチタイムから (幼稚園生活で育った力、育てたい力、小 学校につながる力)	
3月	卒園、進級の喜び…心と体の成長を共感し合え るように		

準備・

手順

- ① 園の教育目標が達成されるための教育課程に基づいて保育を構想し、実践する。
- ② 1年間の保育実践とリンクさせるように園だよりの年間計画を立てる。(上記)
- ③ 上記の年間計画に沿った形で保育の中での具体的なエピソードを収集し、整理して伝える。……資料2
- ④ 長期休みに前などは、家庭で少し意識することで成長につながるかわり方のポイントを知らせ、親子共に育つきっかけを与える。(今年度は食育に重点を置いているため、それに関連した内容) ……資料1





えんだより

第12号

花巻市立花巻幼稚園

平成27年7月16日

一学期も明日のみの登園になりました。さあ、夏休みです！
楽しい経験が積み重ねられるよう体調管理に十分留意し、元気いっぱいに過ごしましょう。

快眠・快食・快動

夏休み中は寝苦しい夜が続くのでしょうか。心地よい眠りが翌日の元気パワーにつながることは、大人も実感します。快眠できると朝の目覚めもすがすがしく朝ごはんをもりもり食べることもつながります。

心地よい眠りのためには「**昼間の光**」を浴びることが大切！

花巻幼稚園の子どもたちは外遊びが大好きです。夏休み中も紫外線対策をし、適切に水分と休養を取りながら「**昼間の光**」を浴びられるよう、お家の方も楽しくかかわって遊ぶ工夫をしましょう。

キーワードを示し、普段から意識しやすくする

『おいしい』をはぐくむ

食事は人と人が楽しく一緒に食することとされています。

家族で楽しい会話をしながら、一緒に食べる人が美味しそうに食べている →

自分も食べてみようと思いたくなる → 食べた時、ほめられる →

「おいしい！」と、感じながら食べられる食品が増えていく → …

この心地よい経験の繰り返しが重要です。

味覚や嗜好は、こうしてじっくりと時間をかけて発達していきます。

園でも大好きな先生や友だちがおいしそうに食べる姿から刺激を受け、「食べてみる！」「〇〇君、がんばれー！」「やったあ！」…と、楽しい雰囲気の中で食べるようになった嬉しい経験をしている姿が多々ありました。

心がけるポイントをわかりやすく示す

お手伝いをするといいことが！

楽しい食卓の前には楽しい食事の準備！

子どもは、楽しい雰囲気の中でのお手伝いが大好きです。

一緒に作ると食することへの関心が高まります →

自分が中心になって作ったような気持ちになり、家族にすすめます


→ 家族が喜んだり、ほめてくれる …

これまた、心地よい経験の繰り返いで、子どもはぐっと成長します。

夏休みは絶好の機会です。

野菜洗いやクッキング等、お子さんと一緒に楽しみましょう。

※ 本日配布しました『なつやすみの暮らし』を有効にご活用ください。



えんだより

第 18 号
花巻市立花巻幼稚園
平成 27 年 10 月 9 日

花巻幼稚園の教育

No.2 『一学期末評価』から
具体目標 1

具体目標 3 つについて、3号にわたって評価の具体を伝える

心と体が健康な子

今年度の重点目標

戸外で十分に体を動かす

《一学期の子どもたちの変容》

満4歳・4歳児

○戸外で遊ぶことを楽しみに登園し、自ら戸外に出て遊び出す子が殆どだった。太鼓橋やジャングルジム、ケンパー等に繰り返し挑戦し、体を動かす楽しさを味わう姿が見られた。砂や水の感触を喜び、積極的に砂遊びや色水遊びを楽しみ、発見や感動を繰り返していた。片付けも楽しんでできるようになった。天候に恵まれ、体操やプール遊びを進んで楽しみ、開放感を味わっていた。殆どの子がみんなと一緒に弁当を食べることを喜ぶようになった。

5歳児

○鬼ごっこやドッジボール、サッカーやリレー等、自分たちで誘い合いながら、繰り返し体を動かして遊ぶ楽しさを味わっていた。

○雲梯や鉄棒、縄跳びやプール遊び等、友だちの刺激を受けたり、きっかけになって自ら挑戦したりし、目標をもって取り組む楽しさを繰り返し味わっていた。

《教師の指導・配慮》

○信頼関係を築けるよう丁寧にかかわり、教師と一緒に戸外に出て、好きな遊びを見つけ楽しむようにした。一人ひとりの興味関心に合った環境の工夫を教師間で話し合って設定した。

○教師間で連携を取り合い、立つ位置やかかわり方を工夫しながら、教師自身が楽しそうに遊び込んだり、片付けたりする姿を見せた。

○課題活動の中で遊具や用具に触れる時間を設定し、みんなが楽しそうと興味をもてるきっかけ作りをした。

○戸外で食べたり、テーブル配置の工夫をしたりし、先生や気の合う友達と一緒に食べると楽しいと感じられる雰囲気作りを心掛けた。

○課題活動の中で体を動かす遊びを取り入れ、きっかけ作りをし、自由遊びの中でも、誘い合って遊び出したいくなる状況を作った。

○友だちの様子に気づくような声掛けや状況作りをし、自ら目標をもって取り組もうとしている姿を見守り、励ましたり認めたりして支えた。

『二学期は』

満4歳

◇興味をもったことを教師に支えられながら、**自分でやってみる楽しさ**が体験できるようにする

(滑り台・ブランコ・ケンパー等、小さな『出来た』を積み重ね、喜びにしていけるように)

4歳児

◇様々な遊びに興味関心をもち**友だちと一緒に様々な動きをやってみようとする気持ち**を育てる

(不安はあるけれど、まずは『やってみよう!』という心を育てていけるように)

5歳児

◇自分なりの目標をもったり、組のみんなとの目標に向かって**取り組んだりする中で、友だちとつながっていく喜びや一体感**を味わえるようにする

(友だちと一緒に喜んだり悔しがったり…達成感や充実感を共感し合う経験を積み重ね『互いによさを認め合い、励まし支え合う友だちの存在』を喜び、それが自信となって、次に向かう意欲にしていけるように)

このような要素が、運動会練習や、明日の運動会にはたくさん盛り込まれています。

毎日、夢中になって遊ぶ中でこのような経験を積み重ねて、心も体も成長しています。

子どもたちの姿を通して、経験内容の教育的意義を伝える

教師のかかわりや環境の工夫の意味を伝える

保護者の声

「先生方の指導がよく分かる」
 「園で大事にしていることが子どもの様子から伝わってくる」
 「こういう保育をしているからこんな変容が見られ

行事と普段の保育の関連を示し、行事の参観の視点を与える

(2) 保護者の知的好奇心を喚起する園だより

<岩手大学教育学部附属幼稚園>

要素B・D
(学習・伝達・説明,
発達の見方)

ポイント

◇ 具体的なエピソードから、保育の意図を伝える

- ・行事予定や周知事項等は、教務が発行する「月のお知らせ」で行い、「えんだより」は副園長が自らの目で見、かかわった園児の姿をもとに考察し、子どもの育つ姿や大人の有り様についてわかりやすく伝える。…資料3

◇ 保護者の学ぶ意欲を高める

- ・普段、子育てに悩みや不安を抱えていつつも、なかなか自分から本を手にとったり誰かに意見を求めたりできないでいる保護者に、子育てのヒントとなる著作物の一節を紹介するなど、保護者の子育てに関する視野を広げたり、もっと深く学ぼうと本を手にとったりするきっかけを作る。…資料4

準備・ 手順

- ① 保育の中での具体的なエピソードを収集する。
- ② エピソード記録の何気ない姿の中に潜んでいる子どもにとっての体験の意味、遊びを通しての学びなどをとらえ、整理する。
- ③ 発信の適時性を考えながら姿と共に整理した事柄について伝え、子どもの見方、かかわり方を理解してもらえるようにする。
- ④ 日頃から、様々な書籍、新聞等で情報収集をし、保護者の気付きを促したり、考えるきっかけとなったりするような話題提供ができるようにしておく。

えんだより



岩手大学教育学部附属幼稚園 2014. 7. 18 No. 10



心の育ちに目を向けて

入園・進級から3か月余り。園内各所で、様々な遊びが繰り広げられるようになってきました。自分から環境にかかわって、やりたいと思うことを存分に楽しんでいる子どもたち。「へえ、こんなこと思いついたんだ!」「いいこと考えたねえ。」「まあ、これはすごい!」と、子どもたちが生み出す遊びの面白さに驚かされたり、感心させられたり、惹きつけられたりすることが多くなってきました。

自分への自信
を培っている
具体例

アスレチックのタイヤがぶら下がっているロープのところから登ろうとして、「行くって気持ちが大切だな。」とつぶやいていたAちゃん。挑戦を繰り返し、登りきると、満面の笑みを浮かべて「がんばりました!」と一言。“私ってすごいでしょ”という自分への自信、“やればできるね”という自分への可能性が伝わってきました。

知的な好奇心を
育てている
具体例

また、森のキッチンで、石鹸クリームをつくっていた年長児たち。「先生見て、このクリーム、きみどり色でしょ。あのね、色をつけようと思って、赤い花で作った色水を混ぜたら、きみどりになったんだよ!」「ふつう、白に赤だったら、ピンクになるでしょ!」「それが、きみどりになったの!」と、を少し興奮気味に教えてくれました。遊びを通して、図らずも仮説・実験で、大発見（アルカリ性の石鹸と反応して色が変化する）をした子どもたち。予想した色にならない不思議に、知的な好奇心が刺激されたことでしょう。

経験による
内面の育ち

このように、子どもたちは、環境とかがわる中で、心が揺り動かされたり、挑戦意欲を掻きたてられたり、知的な好奇心を刺激されたりする中で、自分がやりたいと思うことを見つけ、それを心行くまで楽しみながら、“自分”つくってきました。

お子さんの成長を振り返ってみてください。自分への自信、ものごとに取り組む意欲、自分なりの工夫・挑戦、自分の感情の調整、友達への思い、細やかな感情表現、対象を捉える感性・表現力、自分なりに考える力などなど、さまざまな内面の育ちが感じられるはずです。

夏休みは、ゆっくりと自分らしい生活を取り戻すことができる期間です。4月からこれまでの生活の中で蓄えたものがじっくりと熟成されていく期間でもあるかと思います。ゆったりとした時間の流れの中で、4月から7月までの楽しかった園生活での経験を思い起こして、お子さんと一緒に再現してみるのもいいかもしれませんよ。

いい夏休みになりますように!



資料4 保護者の学びのきっかけとなる園だより

早くできることがいいことか

人間が成長していくためには、どうしても一定の時間が必要なのではないのでしょうか。一歳の子が一歳の時に必要としている時間、二歳なら二歳なりの時間が確保されてこそ、子どもは安心して成長してゆける気がします。子どもは旺盛で柔軟な伸びる力を持っているので、もしお母さんが、早め早めになにかを教え、ほかの子より先に次の段階へ行くようにと追い立てれば、かなりのことを吸収し、どんどんいろんなことができるようになるでしょう。しかし、教えたことができるようになったことが、その子のその時期に当然育つべき他の部分一心の発達や生活のための力などでの未熟さを作り、人間全体としての育ちを悪くする危険があることを十分覚悟しなければなりません。

人の成長の過程で、なにかを得るために何かを失っていきます。たとえば字を読めるようになることで、長いおはなしを覚えたり、絵本の絵の細部に気付いたりすることは自然とできなくなっていきます。けれどもそれが人の身のうちからの成長に伴っていけば、得ることと失うことの両方に意味があるのです。

一本の木の若葉が伸びる時には、古い葉は自然に落ちていきます。けれども無理やり美しい若葉を早く出そうとして、ひっぱったり、強い肥料を余計に与えたりしたら、その木は生命体として激しい痛みを感じることでしょう。

ひぐちみちこ著 「子どもからの贈り物」より

著作物の紹介



「人の成長の過程で、なにかを得るために何かを失っていきます。」という言葉、身にします。何かになりきって遊ぶ、自分なりの言葉で世界を表現する、思いっきり泣いたり笑ったり、ありのままの自分を表現する、何とも味のあるこの時期にしか描けない絵を描く…などなど、「今だからこそ」の子どもの姿を大切にしたいと思います。

保護者の声

- 「子育ての中で忘れかけているようなことを気付かせてくれる内容が多くあるの
でためになる」
- 「幼稚園の様子がよく分かるだけでなく、親として子どもとどうかかわればよい
かなどとても勉強になる」
- 「親自身が何かにつづかっているとき、園だよりは何度も心を打たれた。親も
様々な学びがあった」
- 「コンスタントに発行されていて、子どもたちの様子がよく分かり、毎日安心して
送り出している」



(3) 保護者の声を生かした園だより

<花巻市立湯本保育園>

要素B・D
(学習・伝達・説明,
発達の見方)

ポイント

◇ 保護者の感想等を生かして紙面作りをする

- ・行事等の事後の園だよりでは、園の職員内での振り返りだけでなく、保護者の感想から幼児の姿を通して気付いたこと等を伝えることで、園からの一方的な発信ではなく、双方向のやりとりが可視化できる。また、同じ内容でも、保護者の言葉で伝えることで他の保護者の共感性が高まり、考え方を広げるきっかけになる。…資料5

◇ 写真を生かして紙面作りをする


- ・保育参加等、園内での様子を写真と共に伝えることで、言葉が多くななくても内容がよく伝わる。…資料6

準備・

手順

- ① 行事等の事後にアンケート等必ず感想や意見がもらえるような準備と周知をしておく。
- ② 保育における園行事の目的や、行事当日に至るまでのプロセスを丁寧に伝えておく等、幼児を育てる、といった視点での感想や意見がもらえるような手立てを日頃から行う。
- ③ 普段から負担にならない程度に写真を撮りためておくようにする。行事の際も、出来栄えや見栄えよりも幼児が経験している内容が伝わるような写真を撮るようにする。
- ④ お便りに載せる写真に、育ちが伝わるような短いコメントを付ける。

資料5 保護者の声を生かした園だより



おたんじょうび おめでとう!!

7月 園だより

平成27年6月25日 花巻市立湯本保育園

梅雨の季節になりました。不安定な天候ですが、子ども達が大好きなカエル達はびよんびよん跳ねて大喜びでしょうね。

子ども達は、晴れた日は裸足になって、水・砂・泥のサラサラ、ベタベタ、ドロドロなど色々な感触を味わい五感を刺激しながら、外でたくさん遊んでいますよ。

さて、先月の大型バスに乗って出かけた親子遠足「盛岡市動物公園」では、色々な動物達を見たり、うさぎやひよこの赤ちゃんに触れたりして大喜びの子ども達でした。大好きなお家の方と一緒に食べたおいしいお弁当も、格別だったことでしょう。天候にも恵まれ、ケガや事故もなく楽しい遠足となりました。お忙しいところ、ご参加頂きありがとうございます。

これからの時期は、感染症などの流行が心配されます。花巻市内では、ノロウイルスが発生した施設もあり、保育園でも手洗いうがい、消毒の徹底などが心がけていきたいと思っています。ご家庭でも、十分お気をつけてお過ごしください。

ニコニコせんせい体験 & 個別面談

～ありがとうございました!!～

ニコニコ先生体験&個別面談には18名、個別面談に5名の保護者の皆様にご参加頂きました。体験の様子やアンケートでの感想やご意見などをご紹介します!

***体験の様子**

- ・今回初めて2人のお父さんの参加がありました。大きな体で子ども達のあふれる元気パワーを受け止めて下さり、大きい砂山作ったり、小麦粉粘土あそびでは力強くこねて見せてくれたりとダイナミックに、また優しく話しかけてお世話をしてくれたり等、たくさん触れ合い関わって頂きました。

***アンケートでの感想やご意見**

- ・子ども達の園での様子や、友達との関わり、園での過ごし方が自分の目で確かめられ非常に良かった。自分自身楽しかった。
- ・子ども達へ『教える』のではなく『考えさせる』、『やってあげる』のではなく『体験させる』ことを学びました。

※その他の体験の様子、感想などまだまだあります!裏面につづく・・・!

*10月にも開催しますので、今回参加できなかった保護者の方、再度参加したい方もどうぞ希望ください。近くなりましたらご案内いたします。

<お願い>

***汗ふきタオルについて**

- ・汗ふき用のフェイスタオルをご用意ください。使ったら持ち帰りますので、次の日にはまた、清潔なタオルを持たせて下さいますようお願いいたします。

(フェイスタオルの真ん中、 かけひもをつけて下さい。)

***ハンカチ、おしぼりについて**

- ・手洗い時や汗ふきなどにも使うハンカチ、食事で口や手をふくおしぼりは、毎日清潔な物を持たせて下さいますようお願いいたします。

***着替えの補充について**

- ・汚れた衣類を持ち帰った際は、次の日にはその分の着替えの補充をして頂きますよう、お願いします。

◎7月より 園 務 員 ()
パート保育士 ()
となります。 よろしくお願いたします。

日
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

保護者の声

資料6 写真を生かした園だより

☆ ニコニコせんせい体験 & 個別面談 ～ 体験の様子と感想 (つづき)!

***体験の様子**

- ・お父さん方の他、昨年に引き続き、多数のお母さん方に参加して頂きました! 細かい気配りや、丁寧なかわり、やさしい言葉かけ・・・さすがのお母さん方でした。
- ・写真でも紹介しておりますが、外遊びでの砂山作り、水・砂・泥あそび、ジャングルジム登り、室内では「はないちもんめ」でふれ合い遊び、製作遊びのお手伝い、着替えのお手伝い、一緒に昼食、午睡での添い寝、絵本や紙芝居の読み聞かせ・・・など、半日 or 一日たくさん子ども達とふれ合い、関わりながら体験して頂きました。お父さん、お母さん、そして子ども達がみんなニコニコ笑顔で楽しく過ごすことが出来ました。
- ・昨年の保育アンケートでの、「一日体験してみたい」というご要望、ご意見を取り入れさせて頂き、今回一日体験を希望された方は5名もいらっしゃいました。9時～16時まで大活躍して頂きました!大変、お疲れさまでした!

***アンケートでの感想やご意見**

- ・今回は日にちと時間を選べたので、自分の都合の良い日に合わせられたので良かったと思います。家ではどうしてもやってしまうところがあり自分でできる事、お手伝いは最後まで任せ事が大切と感じました。
- ・徐々に裸足になって外を歩きだるだる作りました。子どもが上手に荷重も作っていて感動しました。子どもの話し方や友達への声かけは、家庭での生活がかわってくるのかなと思うことがあった。自分ももっとしっかりしていかなければと思う。
- ・小さい子どものお世話が大変なんだと思った。人見知りしないので少しだけ先生方を手伝えてよかったと思います。
- ・スイミングを見学、引率の体験をしたが、順番やルールを守ったり身支度を自分で行ったりと感心する所が多かった。また子ども達も素直で単純にわいわいして楽しかった。
- ・たまたま、スイミングの日だったので昨年とはまた違った体験が出来良かったです。(子育てに役立つことは)子どもとの距離感。
- ・周りの同年代の子の様子を見て、何でもやってあげるのではなく、自分で自分のことをやるのを見守り、促していくことの重要性を感じました。
- ・(この体験は) 普段の保育園での過ごし方が分かるので良いと思う。保護者と保育園との相互理解を深める良い機会だと思います。



「何か、いるかな?」



紙芝居の読み聞かせ・・・みんな静かに聞いてるね



絵本の読み聞かせ・・・次はどうなるのかな



何して遊ぼうか?」

***体験の様子**

- ・「それ!よいしょ!」
- 「勝つてうれしいはないちもんめ!」
- やさしくとんとん・・・
- 「おいしいお弁当をいただきます!」
- 「よく寝てあげましたよ!」
- 「やっぱー!」
- 「お前替えしなよ!」
- 「お水気配り!」
- 「そろそろ、お寝なよ!」
- 「すやすや・・・お寝なよ・・・」
- 「お父さんもお母さんも、眠くなっちゃった」
































(4) 育ちのプロセスの見える化を図る玄関掲示物

<九戸村立幼稚園ひめほたるこども園>



要素A・B・C・D
(保護者との関係づくり、
伝達・説明、幼児への共感的関心・
発達の見方)

◇ 幼児の活動の経過が分かるコメント入り掲示をする

・ これまでは、発表会等の園行事の際、全員が平等に写っていることに考慮し、事後に集合写真のような形で掲示することが多かった。しかし、保育においては行事の当日の出来栄等が大事なのではなく、当日に至るまでのプロセスに意味があり、その中で幼児は育っていくということを保護者に実感してもらうため、また行事以外でも普段の子どもたちの様子を共有し成長を喜び合える関係づくりの一助とするため、遊びの中での子どものつぶやきや変化を、コメント入りで掲示するようにした。

◇ 保護者と保育者、保護者同士をつなぐコミュニケーションツールとする

・ 普段の生活の中でも、幼児の様子については保護者に連絡帳や口頭で伝えてきていたが、画像を用いることでより理解を深めたり、成長を実感したりしてもらえるようにした。また掲示した写真が保護者と保育者、保護者同士をつなぎ、幼児の成長を共に喜び合える関係を形成するためのツールとなるようにと、日々の幼児の変化に合わせて掲示を更新していくようにした。

* 取組の様子は次ページ…**実践記録 1**

準備・

手順

- ① 幼児理解と園の教育課程に基づいて保育を構想し、実践する。
- ② 保育の中での具体的な幼児の育ちが見えるエピソードを継続的に記録するとともに、写真も撮りためておく。
- ③ 時系列で整理して掲示し、掲示した写真には子どもたちの行為そのものだけでなく育ちや経験内容などについてのコメントを短く付ける。
- ④ リアルタイムで写真やコメントが日々増えていくように掲示し、「どうなっていくのだろう」という期待感や、共感性が高まるようにする。
- ⑤ 更に詳細な内容についてはクラスだよりに掲載する。

【手をつなごうひめほたるっこ掲示板】

「きりんぐみかっぱ探検隊の巻」

散歩で沼の脇を通ったときに、かっぱがいるかも！という年長組の子どもたちのつぶやきから始まった遊びを追って記録していった。かっぱに会うためにはどうしたらよいかと年長児達が話し合い、好物のキュウリを用意したり手紙を書いたり、かっぱへの思いやイメージを膨らませて沼にかかわっていく様子、派生して園内で楽しんだかっぱごっこなど、遊びを広げ、深めていく様子を時系列で掲示し、子どもが遊びの中で様々なことを学び成長する姿を可視化した。

この掲示により、保護者もかっぱ探検隊に共感し、子どもとともにこの遊びの続きがどうなっていくのかわくわくしながら毎日を過ごす様子が見られた。また、運動会では父親達がかっぱに扮し、障害物競走で相撲をとる場面に登場するなど、積極的に参加する姿が見られた。



家で言ってた
かっぱって、
このことか～

掲示する内容

＜時間の流れ＞

かっぱ探検隊出発！→次の日かっぱ沼に行ってみると→…

＜子どものつぶやき＞

「きゅうりもってきたよ！」
「おてがみをかくじゅんぴはOK！」

＜遊びの中で経験していること＞

友達と力を合わせる・試行錯誤する 等

その時の子どもの気持ちが伝わるように

連絡帳に書いていた
ことって、このこと
だったんだ～

そうそう、このとき
ほくね…



掲示板前が、親子や
保護者同士のコミュ
ニケーションの場に

(5) 発達特性と子育てのおもしろさを知る講演会

<九戸村立幼稚園ひめほたるこども園>

ポイント

要素B
(学習の機会の保障)

◇ 幼児期の発達をわかりやすく伝える

- ・心、体、言葉の面から発達を考え、乳幼児期は人格の基礎をつくる時期だということを再認識してもらう。
- ・知識の読み書きに代表されるような、知識を詰め込むことが教育なのではなく、遊びを通して体験的に学ぶ時期であることを、具体的な例を通して伝える。

◇ 明日からの子育てに前向きになれるようなヒントを伝える

- ・「こうあらねばならぬ」といったことではなく、日々のよくある失敗なども例に挙げながら、子育ての苦勞に共感しつつ、期間限定の楽しみもあることを伝え、保護者同士が共感的にお互いの子育てを捉えられるようにする。

◇ 講師と園で事前に内容について打ち合わせをする

- ・保護者の実態から、どのような情報を与えることが有益かを検討し、講師と園とで打合せをし、講演内容を構成していく。
- ・年度の早い時期の保育参観日に位置付け、できるだけ多くの保護者に聞いてもらい、園の保育について理解してもらえよう配慮する。

* 取組の様子は次ページ… **実践記録2**

<日 程>

- 8:30 親子で登園
好きな遊びを楽しむ
- 9:30 片付け
ミニ散歩（親子で園周辺を歩く）
- 10:30 講演会
- 11:20 昼食（親子で給食）
- 12:00 解散

準備・

手順

- ① 園の保護者の実態に即して園が保護者に学んで欲しいことがらをピックアップし、講師と連絡調整する。
- ② 参観日及び給食試食会と抱き合わせるにより、参加者が参加しやすいように配慮する。
- ③ 講演会中は、園長が司会進行等を務め、担任は自分のクラスの保育にあたる。

実践記録2 子育て講演会

平成 27 年 6 月 24 日（水）

「幼児期の子育てで大切にしたいこと」

講師 岩手県立総合教育センター 研修指導主事 吉田 澄江

- ・心・体・言葉の発達の具体例をもとに、人格形成の基礎を培う幼児期の大切さ、この時期の子育てのおもしろさを伝える。
- ・学習の先取りを園に要求したり、大人中心の生活リズムで幼児を生活させたりする保護者に対して幼児期に育てたいこと、幼児期にふさわしい生活の大切さなど、要点を絞って話ができるよう園の職員とあらかじめ打ち合わせを行う。



<保護者の感想>

- ・参観だけでなく、子育ての講演も聴くことができ充実した参観日でした。具体的にお話しされ参考になることがたくさんありました。子どもの話をしっかり聞いてあげたり一対一で絵本を読んであげたり…これから続けていこうと思います。
- ・実体験を踏まえてのお話だったので、とてもわかりやすく印象に残りました。子どもが成長するには、親が、安心して戻れる居場所になることで、大きくなってからいろいろなことにチャレンジできるんだと分かりました。日々、小言が多くなってしまいがちですが、できるだけ笑顔で子どもの自己肯定感が高まるかわりを心がけたいと思います。保育園で体験してきた事を自分の言葉で一生懸命話そうとする姿にしっかりと向き合っあげようと思いました。
- ・1つの運動を集中して行うより遊びながらいろいろな体験を通して頭も体も鍛えられていくことの方がよいということが分かりました。
- ・1歳から保育園に預け働いてきたことを子どもに対して申し訳ないと心苦しく思っていました。お話を聞いて少し心がほぐれたように思います。子どもの話をよく聞いてあげようと思いました。またこのような機会があればいいなと思います。

<園の職員から>

- ・講演会后、朝の送りの様子が変わった。それまで子どもの話を途中で切り「うん、うん！分かった、わかった！」「じゃあね、行ってきます！」と顔も見ないで飛んでいく保護者が多かったのに対し、子どもの話を最後まで聞いてから「行ってきます。」と園を出て行くようになった。
- ・離れ際に「だっこ！」「グルグルして！」と言われるとそれにも応えてくれるようになった。ちょっとしたふれあいだが、その後は機嫌よく「行ってらっしゃい」が言える。登園がスムーズだとその日一日、親も子も気持ちよく過ごせるので、この変化は喜ばしい。
- ・参観日の講演会は、親の子育て観を変えるよい機会となる。早い時期に行ったことがより効果的だった。

(6) 幼児理解を広げ深める参加型の保護者会

<岩手大学教育学部附属幼稚園>

ポイント

要素B・C・D
(学習の機会の保障・伝達・説明、共感的関心、見方の学び)

◇ 共通の話題となるテキストの活用

- ・1学期末には、園での様子をビデオやスライド等を使い、子どもたちの育ちを伝え、園生活の様子やで園で経験していることの意味を知らせるようにしている。その上で、今回は一歩踏み込んで、園側から一方的な情報提供に終始せず、資料の事例をたたき台に、保護者自身が自分で考えたりお互いに考えを交流したりできるように、話し合いのきっかけとなる資料(今回の場合は手記のような読み物)を活用し、幼児の育ちについて保護者自身が考えを深められるようにする。
使用した資料は、鳴門教育大学学校教育学部附属幼稚園子育て研究グループ『育つ』(1992、教育出版センター)である。…資料7

◇ 少人数グループでのクロストーク

- ・あらかじめ担任が意図したグループに分けておく。(男児女児の保護者を混合する、幼児に兄弟のいる保護者を配置する、積極的に話す保護者を配置する等)
- ・共通に読んだ資料についての率直な感想や自分の子育てに対する考え、日常的なエピソードなどを4、5人のグループで30分程度語り合う。担任は適宜グループをまわり、必要に応じて子どもの様子を伝えたり、考え方のヒントになるようなアドバイスを行ったりする。

◇ 実体験の機会を設ける

- ・「ねことねずみ」を実際に動いて体験してみることで、幼児の活動の意味と価値を実感できるようにする。



準備・ 手順

- ① 日常の保育の中で、育ってきていることを記録等から整理しておき、伝えたいことを簡潔にまとめる。
- ② 保護者に伝えたいことを保護者自ら気付くことができるような資料（読み物または映像など）を選んでおく。
- ③ 話し合いが活発になるようなグループ分けをあらかじめ考えておく。
- ④ 体験することで理解がより深まる活動がある場合には、体験に必要な準備をしておく。

実践記録3 年中組2学期末保護者会

9:15 <保護者と担任で、2学期に子どもたちが楽しんだ助け鬼「ねことねずみ」を体験>

- ・「ねことねずみ」をしながら担任が解説。「ずっと陣地にいると、ゲームが動かなくなって楽しくなくなる。こんなとき、どうしたらおもしろくなるかと子どもたちは考えを巡らせ、友達にアイデアを伝えようとする。そして、相談が始まり、ルールをよりおもしろく変えていく。このように遊びが様々に変化しながらも続いて行く…」等



9:20 <担任から2学期の子どもたちの育ちや様子についての報告>

- ・育ってきていることについて
自分への自信がついてきていること、友達とのつながりを感じられるようになってきていること、そういった育ちを基に、自分のよさとともに他者のよさを実感できるようになり、遊びが広がってきている。それとともに、思いの食い違い等から様々な葛藤体験もしている。マイナス感情も含め、感情体験を豊にしている。現在根気よく取り組んでいる糸引きごまについても、その中で経験していることがたくさんある（実演しながら）…といった内容
- ・資料『育つ』を読む

9:50 <各グループ毎にクロストーク>

- 資料の中身への感想や、自分の今の子育ての中で思うこと等、それぞれに語り合い、共感し合ったり、新たな視点を得たりする。



10:20 <各グループからの発表>

- 主に話題になったことについて発表し、全体で共有する。

10:50 <担任からまとめと連絡>

- 話し合われたことの総括と、冬休みの暮らしについて …… **資料 8**

<保護者の声>

- 資料に共感した。どうしても大人目線でこうしたらよいとか言ってしまいがちだが、言いたい気持ちをぐっとこらえて見守ることが大切だと感じた。
- 親もこうやって子どもと一緒に成長していくものなんだと感じた。
- 生まれたときには元気でいてくれさえすればいいと思っていたのに、だんだん親の欲目が出てきてしまっていることに気付いた。子どもがやりたいと思ったことを存分にできるように、余裕をもって見守りたい。

<担任の所感>

- 園での様々な幼児のトラブルについて、他の子が悪いという見方をしていた母親が、資料の事例を読んで、自分のことのようにだと振り返り、かわりを変えようとする姿が見られた。資料が著名な研究者が書いたものではなく、一保護者の手記だったことで共感性が高まったと思われる。
- 担任が保護者にぜひ伝えたいと思っているこの時期の幼児の育ちや経験内容、かわりのポイントなどが、保護者同士のやりとりの中から自発的に出てきていた。同じ立場での学び合いなので、担任が伝えるより共感的に受け入れられるように思う。

資料7 保護者会資料（抜粋）

「おおい、今度はスケーターで滑ろうぜ。」
と誘っています。スケーターで滑り降りるなんて、まだできないだろうな、と思っ
て見ていると、それぞれスケーターを持ってきて築山に登っていきます。そのうち、
U君、H君は自信を持って滑り降りました。T君はどうしようかと迷っている様子
です。当の彼は、自分でこれは無理だと思ったのか、
「ほな、僕、審判してやるわ。誰が一番遠くまで降りれるか、競争な。」
と言いました。
「ほれ、いいなあ。やろう、やろう。」
と、三人は遊びののってきました。迷っていたT君も、思い切って駆け降りまし
た。「ここまでで、十点な。がんばれよ。」
と、彼のはずんだ声が園庭に響きます。
お友だちと同時に同じことができなくても、彼なりに遊びに参加する方法を考
えたのです。また、お友だちもそんな彼を見下したり仲間からはずすのではなく、
喜んで彼の役割り分担を認めてくれました。「男の子なんだから。」「お友だちの○
○君ができるのだったら。」と、つい勝手なイメージを親のエゴで彼を見つめ、無

また母親は、（跳べなかったら、跳べている子の中でいやじゃないだろうか。
ついて跳べなくて、いじけてまた涙ぐんでいるんじゃないのか。縄とびぐらい跳べ
なくて情けないな。）と、つい先回りして考えてしまいます。でも、手を貸すこと
を嫌っているようなので、どうしたものかな、と思いつながらそのままになってい
ました。
その答えを、幼稚園の保育参加の時、見たように思いました。
四人はいつものように仲良く遊んでいます。今日の遊び場は主に築山の辺りです。
普通になら下へ滑るのに飽きた四人は、下から上へ駆け上がっていく遊びに切り
かえました。まず、U君が、大腿ではずみをつけて駆け上がっていきます。次にH
君がずり落ちそうになりながらも、どうにかたどりつきます。T君はもう少しであ
えなくダウン。つづいて彼は、真ん中ぐらいいままで脚の力がつきて背中を向けてお
しりを下へ。T君は、すぐもう一度挑戦して、どうにか成功。彼はと見ると、一人
別の方へ走って行って、こぼれそうになる涙をけとられないようにぬぐっています。
友だちの「おおい。」の一言に、こちらへ走ってきて挑戦しますが、またまた失敗。
もう涙はあふれ落ちそうです。そのうちに待ちくたびれた上の友だちが、

資料8 保護者会資料（これまでの生活と冬休みについて）



年中組保護者会資料

平成27年12月18日（金）
9:15～10:50
岩手大学教育学部附属幼稚園

1 これまでの生活を振り返って

2 子どもたちの育ちについて

保護者の皆さん同士、小グループで子どもたちの様子を交流し合ひましょう。

3 冬休みの生活について

冬休み 12月23日（水）～1月18日（月）



(1) こんな冬休みに

◆ 親子でじっくりかかわるとき

親子で一緒に遊んだり、絵本を見たりするなど、一日の中に短時間でも、お子さんとじっくりか
かわるひとときをつくりましょう。お子さんとかかわりながら、お子さんの楽しんでいることに共
感したり、やろうとしていることが実現できるように支えたりしてあげましょう。

◆ 冬・この時期ならではの体験を

寒さも本格的になりますが、雪遊びなど戸外に出て、自然にかかわる機会をつくりましょう。
クリスマス、大晦日、お正月など、この時期ならではの行事は子どもたちにとって楽しみなもの
です。これらの行事を家族で一緒に楽しみながら、日本の文化に触れる機会にしましょう。

◆ 生活を通して

・規則正しい、メリハリのある生活を心がけましょう。
・衣服の着脱、身の回りの始末、片付けなど、少々時間がかかっても自分でやろうとする気持ち
を大切に、どんなにささやかなことでも「自分なりにやれた」と実感できる機会を増やしてい
くようにしましょう。コートのファスナーやボタンをかけること、手袋や帽子の後始末など、自
分でできるようにしていきましょう。

◆ 家族そろって食事を

できるだけ家族そろっての食事を心がけ、家族と一緒に食べる楽しさを味わえるようにしていき
ましょう。また、食事のマナーを身につけたり、料理や食材を通して「食」への興味や関心を高め
たり、季節を感じたりする機会をもつようにしましょう。

◆ 社会生活の中で望ましいルールやマナーを

外に出かける機会が多くなると思います。公共の場や乗り物で、望ましい行動がとれるようにし
ていきましょう。

◆ 安全への配慮を

凍っている路上での遊びや飛び出しによる交通事故、落雪による事故、やけどなど、事故やケガ
のないよう安全には十分に配慮しましょう。
・安全についてお子さんが自ら気付ける状況を作り、折に触れて伝えていくようにしましょう。

(2) 冬休みの様子を「ふゆやすみのきろく」に

① 冬休みの様子を「ふゆやすみのきろく」の用紙に書いてお知らせください。
冬休み中のエピソード、ふともらしたお子さんのつぶやきなど、お子さんの冬休みの様子を具体
的にお知らせいただきたいです。（夏休みもすてきなエピソードがいろいろ書かれていてお
子さんの成長の様子が伝わってきました。）

② 冬休みの過ごし方をお子さんと話し合い、取り組みましょう。

お子さんと相談して、生活全般のこと、食事にかかわることについて一つずつ決めて取り
組んでみましょう。取り組みの様子についてもお知らせください。

冬休み前日に、お子さんに「ふゆやすみのきろく」の用紙を配布します。用紙が足りないときは、
お手持ちの用紙を足したり、ノートなどに写真やお子さんの作品などを添えたりして、オリジナル
の冬休みの思い出を作られるのもよいのではないかと思います。 1月19日（火）提出

3 諸連絡

冬休み前に持ち帰るもの

- 18日（金） 着替え袋
- 21日（月） 遊びで制作したもの、なわとび、絵本がばん
- 22日（火） 室内用スック靴、カラー帽子、けんごうのきろく、ふゆやすみのきろく
- ※ 持ち帰ったものは、冬休み中、家庭で保管してください。
- ※ 冬休み明けには、サイズや記名の確認をして持たせてください。

冬休み明けに持ってくるもの

- 19日（火） …… 室内用スック靴、カラー帽子、なわとび、絵本がばん
- けんごうのきろく、ふゆやすみのきろく、茶封筒、雑巾1枚
- 20日（水） …… 着替え袋

お願い

今後の生活で心掛けたいこと

- ・早めに登園する。（登園時間8時45分～9時、お子さんの活動、遊び出しがスムーズに進められるように）
- ・身支度、身の回りのことを自分でする。（自分で靴を持つ、持ち物の準備、着替え、片付け等）

*** 登園時の安全とマナーについて**

お子さんと手をつないで歩く、路上や駐車場で話し込まないなど、安全に気を付けましょう。また、
地域の方と挨拶を交わすなど、マナーについても大人がお手本となるようにしましょう。

*** 降園後の園庭での遊びについて** ……雪が積もるまでは園庭開放はお休みします。園庭開放の
日は必ずお子さんと一緒に行動をしてください。

*** 持ち物の記名について** ……すべての持ち物に記名をお願いします。（手袋、帽子等も）

*** 着替えについて** ……季節に合わせて着替え袋の中の衣服の入れ替えをお願いします。

*** ままごと衣類の洗濯について** ……持ち帰って洗濯出来る方、ご協力お願いいたします。
12月22日（火）の降園時に玄関に出します。

*** 雪遊びについて** ……冬休み明けも雪遊びができるように、以下のもの用意をお願いします。
・スキーウェア（懐かりにループを付けてください）
・手袋（左右を紐をつないでください）
・帽子、履物

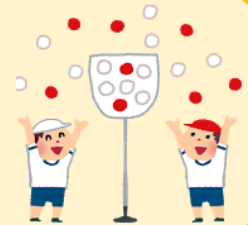
*** 園庭用のスックについて** ……春までお家で保管下さい。

*** 「早起き朝ごはんガイド」について** ……冬休み前日にお渡しします。ご利用ください。

2 行事・体験型支援

支援の例

- 保育参加
- 保育参観
- 親子遠足
- 運動会
- 発表会 等



保護者にとってのメリット

- ・ 保育者のかかわり方を見ることで、子育てのヒントを得られます
- ・ 他の幼児を見ることで、幼児理解が深まります
- ・ 我が子との共通体験を通して、親子の共感性が高まります
- ・ 他の保護者のかかわりや考え方に触れる機会となります



支えとなる保育の質を保つための視点

- ・ その時期の発達の捉えや行事・活動のねらいが適切であること
- ・ 保護者のモデルとなり得る一人一人に応じた適切な援助が行われていること

チェック

- その時期毎に幼児や保護者に体験して欲しい内容を整理しているか。
- 行事の前に、その時期の幼児の育ちや行事の趣旨、当日までのプロセスを丁寧に伝えているか。
- アフターフォロー（事後に保護者とのミーティングをしたり、感想・意見を記述で提出してもらって通信等で共有したりする）を大切にしているか。

(1) 保護者の子育てに対する不安感を安心感に変える お弁当参観と懇談会

＜盛岡市立太田幼稚園＞

ポイント

要素B・C・D

(伝達・説明, 共感的関心・発
達の見方)

◇ 参観のイメージがもてるおたよりを事前配付する

- ・視点を明示して昼食準備や昼食時の姿を実際に見てもらい、園生活について理解してもらう。
- ・細かな流れも明示し、参観が初めての保護者でも参観の仕方をイメージして臨むことができるようにする。…[資料9](#)

◇ 見せたい子どもの姿を明確にして参観時間を設定する

- ・年少組・年中組でクラス毎に行い、片付け以降の子どもたちの様子を参観してもらう。(11:00～)
- ・保護者は、入園・進級した子どもたちが、どのように集団生活の中で食事をしているのか、お弁当の量や内容は我が子に合っているのか、他の子はどのようなお弁当を食べているのかなど、気になる事をたくさん抱えている。幼児が楽しく食べる姿を見せることで、その不安の解消を図るとともに、他の親子と共に食事を取ることで心理的距離が近くなり、保護者の学級への所属感を高める効果をねらっている。…[実践記録4](#)

◇ 懇談会のねらいを明確にする

- ・日頃感じていること、不安に思っていることなどを懇談し、悩みを共有したり、同じような姿からこの時期の幼児の特徴について知ったりし、子どもの育ちの理解につなげる。
- ・保護者一人一人が自己紹介を兼ねて話をするすることで、お互いを知るきっかけとするとともに、共に子育てをする仲間としての共感的な雰囲気醸成する。…[実践記録5](#)

◇ 教師の働きかけで子育ての不安を解消し、よさや喜びの実感につなげる

- ・懇談会では、保護者の悩みに共感しながら、けんかの場面など一見マイナスに見える状況が育ちに必要な経験となっているといった意味づけをし、園でも一人一人の育ちを引き出せるよう丁寧に見ていること、家庭と共に子どもの成長を支えていきたいと考えていることを伝える。

準備・

手順

- ① その時期の幼児の姿を的確に捉えた上で、ねらいを明確にした保育参観・懇談会を計画する。
- ② 参観がイメージできる案内を工夫する。
- ③ 懇談会では、保護者の不安に思う部分についてある程度予測し、その思いに寄り添いながら、その時期の幼児の発達と経験内容について整理し、大人のかかわり方や保育内容の有効性について根拠をもって伝えられるようにする。

資料9 参観・懇談会のお知らせ



そら組お弁当参観懇談会のお知らせ

平成27年5月28日
盛岡市立太田幼稚園

新しい環境にも慣れ、戸外で伸び伸びと遊ぶ様子が見られているこの頃です。
さて、お弁当参観と懇談会を下記のように行います。お子さんの姿をご覧になりながら、日頃の生活のことなどをお話する機会にしたいと思っておりますので、ぜひご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

日時 6月10日(水) 11:00~

日程 11:00 保育室集合
挨拶、出席調べ
歌、手遊びなど

11:30 お弁当の準備

- ・トイレ、手洗い
- ・リュック、コップ、椅子を持ってくる
- ・お弁当を出す
- ・『おべんとうのうた』を歌う
- ・「いただきます」の挨拶をする

お弁当の片付け

- ・食べ終わった子から片付けをする
- ・歯みがきをする
- ・休息をする
- ・みんなで「ごちそうさま」をする

12:20 懇談会(ホール)

*子どもたちは保育室で遊んで待ちます。

13:00頃 懇談会終了後、親子で降園

持ち物 ♪お家の方もおにぎりとお弁当のコップをご持参下さい。



参観の視
点をわか
りやすく
示す

☆準備や片付けを一人でごんぱって
できるかな?

☆楽しく食べているかな?

お子さんの食べる
様子を見ながら、
お家の方も一緒に
食べましょう。

食後は一緒に絵本
を見て休息しまし
ょう。

あらかじめイメ
ージして参観で
きるよう、活動
の流れを具体的
に明示

実践記録4 お弁当参観の様子と保護者の声

<お弁当参観の様子>

- 片付け終え、学級全体が保育室に集まったところからの参観。幼児と一緒に手遊び等をし、和やかなムードになったところでお弁当の準備に取り掛かる。保護者にはこやかに観ている。準備ができたところで、保護者が我が子の隣に座り、会食する。
- 一つのテーブルを囲み食事を共にすることで、保護者同士や、他の幼児と親しくかわり、会話が弾んでいる様子が見られた。
- 量やメニューを気にしていた保護者も、子どもたちが楽しそうに食べている様子を見て、これでいいのだと安心していた。



<保護者の声>

- お弁当の量が確認できてよかった。
- お弁当の量、少ないかなと思っていたが「食べきった」という満足そうな様子が見られるので、しばらくはこのままでいこうと思う。
- おなかがすいていなかったのか、思ったより食が進まなかったので、起床時刻や朝食時刻を早めようと思う。
- お弁当の蓋やゴムのお弁当ベルトが、4歳児には扱いにくい物を持たせていたと反省した。我が子が自分でできずに大人に頼る様子があったので、自分でできるものに変えたい。
- 早く食べ終わる姿を見て、お弁当を少し大きくしようと思った。
- 家庭では甘えてご飯を食べさせてもらったり、お弁当包みも「やって」と言ってきたりするが、園では自分なりに最後まで自分でやろうとする姿が見えた。



＜懇談会の様子＞

- ・ホールに保護者、担任、園長があつまり、お互いが見えるようにサークル型にイスを並べて座る。当該クラスの幼児の保育は、他の職員が行う。
- ・初めに担任から最近の幼児の様子を話し、その後保護者一人一人からお弁当参観の感想や、最近の我が子の様子、気になっていることなどをざっくばらんに話してもらう。最後に園長が幼児の育ちや幼稚園教育についてまとめの話をする。
- ・お互いの話を聞くことにより、多くの、特に男児の保護者が、けんかをしているのではないかと心配しているのが自分だけではないと分かり、さらに、この時期にむしろ必要な経験であることを担任や園長から伝えられたことで、気持ちにゆとりをもってみていこうという構えができたようで、ほっとした表情を見せていた。
- ・手が出てしまう子の保護者がそのことを知らないわけではなく、むしろ気にして悩んでいる様子を見て、自分の子が被害に遭っていると少々怒った雰囲気でも参観のはじめに入ってきた保護者も、そうだったのか、と大変な思いを共有して、一緒に育てていこうという気持ちが芽生えたようだった。
- ・お互いの話しを聞きながら聞き、ときにはどろんこの衣服の洗濯が大変で着替えがなくなりパジャマを持たせた等、子どもの楽しいエピソードなども飛び出し、初めは緊張した面持ちの保護者もいたが、次第に打ち解けていく様子が見られた。

＜実際の話＞（抜粋）

担任

- ・友達とのかかわりが楽しい、心地よいと感じる様子が多く見られるようになってきている。石けんでのあわ作りや砂場の川作り、室内のお家ごっこなど、2、3人で固まって一緒に心地よさを感じている。鬼ごっこなども友達と一緒に走り回ることが楽しい様子。かかわりが出てきたことで、その分けんかもある。思いをまだうまく伝えられなくて、教師と一緒に伝えたり、相手の思いはこうだったんだと知る機会になったりしている。これからもけんかはあると思うが、その都度丁寧にかかわって人とかかわり方を学んでいけるといいなと思っている。
- ・お弁当は準備から合わせて40分くらいかけて食べている。お弁当包みがうまくなってきた。友達と楽しく会話しながら食べている。

保護者

- ・虫が嫌いだったが、友達が捕まえるのを見て興味をもつようになった。
- ・集団生活は今年初めて。家では兄2人と互角にけんかしているが、園の様子を見ていると、意外に人見知り。家では友達の名前がよく出てくるので、友達に関心があるのだと思う。もっともっと自分からかかわって仲良くしたいと思っている様子。その仕方を模索しているのだと思う。たくさんのことを経験して友達とかかわっていけるとよいなと思っている。
- ・毎日どろんこになって遊んできて、楽しいんだろうな、と思う。
- ・年少組さんが入園したことで、お兄さんの自覚が出てきて、家庭でも弟に対し、遊ぶときには『入れて』って言うんだよ』などと教えている。
- ・家ではけんかで兄に手を出しているが、園では言葉で伝えていた。使い分けている。
- ・いつも皆さんに迷惑を掛けている娘だが、今日はOちゃんのパパ、と子どもたちが覚えていてくれて、一緒に遊べてよかった。

園長

・友達と過ごすことが楽しくなってきた、自分を出せるようになってきている。その分けんかも起きるが、お互いに自分を主張することで相手のことが分かるようになる。年中組が一番けんかの多い年齢。きっと、家庭ではこうされてイヤだった、と自分に都合のよいことを言うと思うが、園では、先生方が丁寧にみていて、お互いの思いを引き出すようにしている。言葉で教えたからわかるのではなく、いろんなことが起きながら子どもは育っていくし体験しながら学んでいく。

* 年長組は、お弁当参観ではなく、遊びにどのように向き合っているのか、また遊びの中で友達とどのようにかかわっているか等を中心に参観してもらっている。…資料10

安定した情緒の下での園生活を基盤に、どのように年長児が自分の学びを広げ、深めていっているのかという一歩踏み込んだ視点で保護者に見てもらい、懇談する。

資料10 参観・懇談会のお知らせ（年長組）



たいよう組参観懇談会のお知らせ

平成27年5月28日
盛岡市立太田幼稚園

6月11日はたいよう組の参観・懇談会です。子どもさんと一緒に遊びながらどのようなことを楽しんでいるのか、友達とどのように関わっているかなどご覧ください。また、懇談では参観での感想、日頃感じていることや気になること、ご家庭での様子などを出し合い、情報交換していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。お泊り会についても話題にしたいと思っております。

ねらい

- 全身を使って遊ぶ楽しさを感じる。
- 興味を持ったことにじっくり取り組み、工夫したり試したりする。
- 友達と一緒に活動に取り組む楽しさを味わう。



日程

8:30～○登園

- ・挨拶
- ・出席シールを貼る
- ・タオル、コップを出す

○好きな遊びに取り組む。

*自分で遊びを決めて取り組んでいます。

- ・家ごっこ
- ・店ごっこ
- ・鬼ごっこ
- ・砂遊び
- ・泡作り
- ・縄跳び

など

10:30 ○片付け

- ・トイレ、手洗い

10:50 ○みんなで楽しむ活動

- ・リズム、ゲーム、製作など

11:30 ○昼食（たいよう組保育室）

12:20 ○降園準備

12:30 ○親子で降園

*お家さんと一緒に来て参観して下さい結構です。



9:45 ○お家の方登園

○一緒に好きな遊びをする。

*一緒に遊びながら、どんなことを感じたり楽しんだりしているのか、体験してみてください。

*「入れて」と子どもたちの遊びに積極的に参加してください。

*みんなと力を合わせて片付けをしているでしょうか？お家さんがどのように動いているかご覧ください。

*一緒に楽しみましょう。

11:30 ○懇談会（ホール）

*お家の方々はお腹がすくと思いますが、ご家庭で昼食をお願いします。

12:30 ○親子で降園



保育のねらいを明示

一日の流れを明示

参観の視点をわかりやすく示す

(2) 子どもの見方を深める「ニコニコせんせい体験」

<花巻市立花巻幼稚園>

要素B・C・D

(学習の機会の保障・共感的関心・発達の見方)

ポイント

◇ 保護者が参加しやすい日程にする

- ・本園で12年前から取り組んでいる保育参加の一つである「絵本の読み聞かせ」(毎週木曜日)と、花巻市で進めている「ニコニコせんせい体験」を抱き合わせて実施している。降園前のひととき、先生になって読み聞かせの体験をする「絵本の読み聞かせ」のみに参加してもよいし、「ニコニコせんせい体験」として、絵本の読み聞かせも含め丸一日先生になって参加してもよい、というように、選択できる形にし、保護者の希望に柔軟に対応できるようにしている。…[資料11](#)
- ・保護者以外に祖父母なども参加可とし、家族の誰かが1年のうち1度は参加できるよう配慮している。

◇ せんせい体験を充実させるための事前打合せをする

- ・事前に打ち合わせの日を設け、その時期の学級の子どもたちの様子、育ってきていること、大事にしたいこと、その他気をつけていること等を伝え、動き方の確認をする。
- ・振り返りは、花巻市で発行しているアンケート用紙に記入する形で行う。

準備・

手順

- ① 幼児一人一人の育ちについて保育者が的確に把握し、必要な援助の方向性を見極めておく。
- ② 事前打ち合わせで、子どもたちの育ちと援助の方向性を保護者と確認する。
- ③ 保育中も、保育者の動きがモデルになっていることを意識し、かかわり方を吟味する。必要に応じて保護者と子どもの状況(子どもっておもしろいなあと実感できるような)等について情報交換をする。
- ④ 事後にアンケートを実施し、工夫・改善に役立てる。

『絵本の読み聞かせ』 & 『ニコニコせんせい体験』のお知らせ

本園では、12年前より保護者の方々の様々な保育参加の機会を作っています。

この『絵本の読み聞かせ』もそのひとつです。

いろいろな方々に様々な絵本を読んでいただくことで、子ども達はますます絵本やお話が大好きになっているようです。

また、保護者の方々に保育参加していただくことにより、子ども達の幼稚園での様子や幼稚園教育の実際についてご理解を深めていただく機会になっているようです。

昨年度から花巻市の取り組みとして『ニコニコせんせい体験』を実施しています。「子どもに対する相互理解」「園と保護者との信頼関係」を深めることを目的としています。

本園では、『絵本の読み聞かせ』をする日の朝から園に来ていただき、一日『ニコニコせんせい』になっていただきます。

保護者の方に幼稚園教諭体験をしていただく貴重な機会となっています。

子ども達が喜びますので奮ってご参加下さい。

お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんなど、お家の方どなたでも結構です。

下記の用紙に記入し、8日（金）までに担任までご提出ください。

人数を把握した上で今後の計画を立て、希望者にお知らせします。

キ リ ト リ セ ン

ご希望される方を○で囲んでください。

『絵本の読み聞かせ』のみ希望します ・ 『ニコニコせんせい体験』も希望します

組 名	
園 児 名	
希望者名	

こんないいこと！

- ・ 自分の子育てに不安を感じている保護者にとって、たくさんの幼児との触れ合いを通し、子どもが一人一人違うこと、成長には個人差があることなどを感じ、かかわり方にも正解があるわけではないことを体験し、正解がないからこそそのおもしろさを感じ取ってもらうことで気持ちにゆとりが生まれてくる。
- ・ 園生活と家庭生活の循環を直接体験で感じ取ってもらうことで、家庭で断片的に見て評価してしまっていた我が子の行動に文脈を見出し、その行動の意味や子どもの思いの揺れ動きに添おうとする姿勢が培われていく。

実践記録6 「ニコニコせんせい体験」の様子

6月11日（木）（保護者2名参加，絵本の読み聞かせのみ保護者1名参加）

<保護者の様子>

朝から緊張気味で参加していた保護者がいたが，子どもたちが様々な用件でかかわってくるので，時間とともに子どもたちの中に自然に入れるようになってきていた。



<保護者からの感想>（複数の実施日のものから抜粋）

- ・昨年も参加したが，年長になり遊び方や友達とのかかわり方が変わってきた姿を見ることができ，楽しかった。他のお子さんの成長も見ることができ，嬉しかった。
- ・家では甘えてばかりの我が子が，幼稚園という外の世界ではしっかり者になっていて，目の前で頑張る姿を見ることができたので，家での甘えが前よりもかわいいと感じられるようになった。もっとしっかりして欲しいと思っていたことも，「この子も頑張っているじゃないか！」と思えるようになった。
- ・先生と子どものやりとりや子ども同士のかかわりを見て，こういうときにはこうしたらよいとか，こういう言い方をすると子どもが納得して動けるんだということなど，自分の生活の中で活用できることをたくさん学んだ。

<園の職員の声>

- ・自分の子どもとどう向き合っていくか悩んでいた母親が，子どもたちと体を動かして遊び，かかわることで楽しさを感じ，「気持ち晴れた」と嬉しそうにしていた。また，自分の子どもがどんな風に友達と遊んでいるのかを見ることができ，安心することができていた。
- ・担任が毎日子どもの様子を伝えているが，実際の姿を見てもらうことで「これだったんですね！家に帰ったらいっぱい誉めてあげなきゃ！」と家では見られない姿に感動してもらえたり，成長を感じてもらえたりした。
- ・自分の保護者が来ることで，嬉しそうに張り切る子どもの姿があった。
- ・教師のかかわり方を見ていただき，園の教育をより理解していただけた。
- ・大人には簡単なことでも，子どもにとっては難しいこと等も実際の姿から理解してもらえた。

(3) 幼児理解を深める「ニコニコせんせい体験」・ 個別面談（相談・援助型支援を兼ねる）

＜花巻市立湯本保育園＞



要素A・B・C・D
(園と保護者の信頼関係・学習
や体験の機会の保障・共感的
関心・発達の見方)

◇ 保育園の日常生活でのせんせい体験を重視する

・昨年度は、誕生会と抱き合わせでニコニコせんせい体験を行っていたが、特別な行事の日であるために、セレモニーに少し出番があるだけで、保護者が主体的に参加する状況を作りにくく、専ら参観となり受け身になってしまうという反省を基に、日常の保育に参加できるような形に改めた。参加についても、一定期間内で保護者の都合のよい日を選んでもらい、参加の仕方も半日または一日から選ぶことができるようにした。

◇ 「ニコニコせんせい体験」と同日に個別面談を実施する

・昨年度は、個別面談を単独で期間を決めて実施していたが、今年度はニコニコせんせい体験と同じ日に設定。保護者の予定の調整にも配慮。

◇ 保護者対応の研修をする

・研修指導主事による保護者対応の基本や、カウンセリングマインドを大切にされた対話の仕方等について学ぶ。

準備・

手順

- ① 幼児理解を基に園としての保育のあり方を職員で共有する。
- ② 昨年度の反省を生かし、保護者が主体的に保育にかかわる方法を検討する。
- ③ 研修会を開き、保護者対応の基本を職員全体で確認する。
- ④ 年2回、1～2週間の期間を決め、保護者の都合に合わせて参加の仕方も選べるようにし、個別面談と併せて実施する。
- ⑤ 事後にアンケートを実施し、工夫・改善に役立てる。

実践記録7 ニコニコせんせい体験の様子

6月12日（金）（保護者2名参加）

＜保護者の様子＞

普段から我が子が心配で、出だしも不安そうな様子でかかっていた保護者が1名いたが、様々な幼児とかかわるうちに、それぞれが個性的で一人一人違うことを実感し、我が子の姿も肯定的に受け止めようという前向きな気持ちに変わっていった。

＜保護者からの感想＞（複数の実施日のものから抜粋）

- ・子ども達へ「教えるのではなく「考えさせる」，「やってあげる」のではなく「体験させる」ことを学んだ。
- ・今年は給食がとても役立った。野菜をもっと工夫して，家でも出していきたいと思った。
- ・園で頑張っている分，家では甘えなくなるのを改めて感じ，多少のことは心を広くし，大目に見て，受け止めよう思う。
- ・今回は半日だったので，来年は一日を希望しようと思う。
- ・子どもに“自分でする”ように促す先生の子ども達への接し方など，言い方をまねてみようと思った。
- ・家ではどうしても親がやってしまうところがあり，自分でできること，お手伝いは最後まで任せることが大切だ感じた。
- ・子どもの話し方や友達への接し方は，家庭での生活がかかわってくるのかなと思うことがあった。自分ももっとしっかりしていかなければと思う。
- ・周りの同年代の子の様子を見て，何でもやってあげるのではなく，自分で自分のことをやるのを見守り，促していくことの重要性を感じた。
- ・この体験は，普通の保育園での過ごし方が分かるのでよいと思う。保護者と保育園との相互理解を深めるよい機会だと思った。





<園の職員の声>

- 保育園に関心をもっといただく機会になった。
- 日常の保育を見ていただいたことで、日々の生活と子どもの様子を知ってもらい、安心につながったようだ。傍観ではなく、一緒に遊び、楽しさを味わってもらうことができた。また他児とのかかわりを通して、3歳児の育ちを理解した様子があった。
- 他児の様子から、自分が我が子に手をかけ過ぎだったと気付く機会になっていた。
- 参観よりも参加（体験）の方が保護者にとって幼児や保育を理解しやすいのではと感じた。
- 家庭とは別の姿を見ることで、我が子の成長を感じる機会になっていた。
- 対応の仕方が参考になった、という声が多く聞かれた。
- 保育参加（「ニコニコせんせい体験」）と個別面談を同じ日にしたことで、子どもの具体的な姿を話題にでき、育ちを共通確認することができた。
- カウンセリングを生かした保護者対応の研修をして、保育者側から一方的に伝えることよりも、保護者の声を聞くことを意識したところ、「子育てが初めてでわからないんです」といった思いや悩みを素直に話す姿が多く見られ、保育者も保護者もお互いに心を開いて話し合うことができた。
- 0, 1歳児は泣いて親から離れなくなる姿もあるので、対象を2歳児以上にしてもよいのではないかと。



(4) 多様な視点から幼児理解を深め、広げる保育参加・ミーティング

<岩手大学教育学部附属幼稚園>



要素A・B・C・D

(園と保護者の信頼関係・学習
や体験の機会の保障・共感的
関心・発達の見方)

◇ 少人数で保育参加をする

- ・各年齢4日間の保育参加期間を設け、各学級で保護者を均等に割り振る。1回の保育参加人数が各学級5～6人になるようにする。子どもたちの遊びのグループ1つに1人が付くような形で保育に当たることで、じっくり子どもとかわることができる。
- ・保育後のミーティングは、年少組・年中組は学級毎に少人数で行うことで、話しやすくやりとりが活発にできるようにする。年長組は学年2クラス合同で行い、その時期の育ちを学年皆で共有できるようにする。

◇ 事前に丁寧に情報提供をする

- ・1ヶ月程度前に趣旨等を知らせ、保護者が心構えをもてるようにする。…[資料12](#)
- ・保育参加開始前日に「保育参加のしおり」を配付し、当該時期の子どもたちの遊びの具体的な様子から育ちを知らせ、どんなかわり方をして欲しいかイメージして臨めるようにする。…[資料13](#)
- ・当日の朝に短時間で打合せをする。担任が1日の流れ及び前日までの様子を環境構成図等で伝え、保育の見通しがもてるようにする。…[資料14](#)

◇ ミーティングで幼児理解を深め広げる

- ・降園後、保育参加者の子どもは他の職員が保育し、お昼までをめぐりに保護者と担任とでミーティングをする。具体的な場面からこの時期の子どもたちの育ちについて話しが深まっていくように、押さえないポイントについては担任団で打合せをする。…[資料15](#)
- ・ポイントを押さえつつも、基本は保護者から出てきた話題についてみんなで考えたり、育ちの様子を共有したりする。…[実践記録8](#)

◇ 事後のクラスだよりで幼児理解を共有する

- ・ 年中組は4日間に分けて保育参加をしているので、各保育参加日が出てきた話題でぜひ共有したいこと等は事後にクラスだよりを発行し、学級全体の保護者に伝えるようにする。

…資料16 資料17

準備・

手順

- ① その時期の幼児の育ちについて園内で共有し、保育のあり方について検討する。
- ② 幼児にとっての保護者が保育に加わることを意味、保護者にとっての保育参加体験の意味を整理し、保育参加の時期や方法・内容を定める。
- ③ 記録を基に、幼児の育ちや活動の意味、活動のプロセス等が保護者にも分かるように事前の配布物を効果的に使う。
- ④ 保育の方向性を保護者と共有し、保護者が主体的に保育できるように事前打合せを行う。
- ⑤ 有効なミーティングとなるよう、担任団でポイントを確認すると共に、保護者が主体的に話せるようコーディネートしていく。

資料12 保育参加のお知らせ

平成27年8月21日

つばき組保護者各位

岩手大学教育学部附属幼稚園

保育参加のお知らせ

夏休みが明け、子どもたちは、少しずつ園生活のリズムを取り戻しているところで、友達の様子をじっと見たり、同じようなことを真似してやってみたりしながら、少しずつ自分なりに動き出そうとしています。また、廃材を使って虫や武器を製作したり、種をつないだり、水鉄砲を使ったりの水遊び、砂場での川作りや料理作り、サッカーや鬼ごっこの遊びなど、これまでに楽しんできた遊びを思い出しながら、自分のやりたいことに向かっていく姿もあちこちで見られます。自然への関心も高く、朝顔を使ったの色水づくりに夢中になる姿や自分たちが虫になりきって森の探検を楽しむ姿も見られます。そういった遊びを思う存分の中で、友達とのつながりや一緒にいる心地よさを思い出している子ども達です。

このような姿を大切にするとともに、これからの時期は、自分の思いを出しながら友達との遊びを楽しんだり、自分なりにこうしたいという思いをもちながらじっくりと興味をもったことに取り組んだり、戸外で体を存分に動かす心地よさを味わったりすることができるよう環境を整えたり、活動を投げかけたりしていきたいと思えます。

そこで、下記のように保育参加の日を設定し、保護者の皆さんと一緒に遊びの援助をしたり、活動を支えたりしながら、子どもの遊びの面白さを感じ取ったり、子どもの育ちや発達を理解を深めたりしていく機会にしたいと考えております。

1 日時

9月 8日(火)	8:45 ~ 11:00
9月 9日(水)	8:45 ~ 11:00
9月16日(水)	8:45 ~ 11:00
9月17日(木)	8:45 ~ 11:00

※ 保育参加の8日、9日、16日、17日の4日間の降園時刻は、**全員11:00**となります。よろしくお願ひします。

※ 9月10日(木)は、保育参加の予定でしたが、「記念講演会」と日にちが重なってしまったため、日程が変更になりました。

そのため、**10日(木)降園時刻は13:40**となります。

2 一日の流れ

8:45~9:00	登園
※ 8:55~9:00の時間帯に、保育参加に当たっている保護者の方々と打ち合わせを行います。「としよのへや」にお集まりください。	
9:00~	遊び
10:10~10:30	片付け
10:30~11:00	みんなでの活動
11:00	降園

11:10~12:00	保護者の皆さんと担任とでミーティング (各保育室で)
※ 活動の内容によっては、保育の流れが入れ替わることもあります。	

3 保育参加の方法・内容

- 各クラス1日あたり5人の保護者の方に参加していただきます。下記のように割り振らせていただきましたので、よろしくお願ひいたします。
- 当日の朝に保育参加の保護者の皆さんと打ち合わせを行いますので、保育参加に当たっている保護者の皆さんは、8:55に「としよのへや」にお集まりください。
- 登園から片付けまでは、遊びの援助をお願いいたします。子どもたちの仲間の一人として遊びに参加したり、モデルとなる動きをしたりしながら、子どもの遊びの様子を見ながら必要と思われる援助をお願いします。
- 降園後、保育参加いただいた保護者の皆さんとその日の遊びの様子、子どもたちの様子などについて、交流し合いたいと思ひます。
- ※ お子さんたちは、おはなしの部屋でお預かりいたします。

4 保育参加一覧表

9月8日(火)	9月9日(水)	9月16日(水)	9月17日(木)

※ 機械的に割り振りさせていただきました。割り当たった日が都合の悪い場合は、保護者の方向上で都合のよい日を交換していただきたいと思ひます。日にちが変更になった場合は、担任までお知らせくださいますようお願いいたします。

主旨や内容

資料13 保育参加のしおり

年中組保育参加のしおり

平成26年9月7日
岩手大学教育学部附属幼稚園

明日から、保護者の皆さんに保育に参加していただく保育参加が始まります。幼稚園で子ども達とともに過ごしながら、どんなことが育っているのかを感じ取っていただけたらと思います。

その上で、子ども達の遊びがより楽しくなるために、保護者の皆さんにも、担任とともに保育者の一人として子ども達にかかわり、遊びが楽しくなるような援助をお願いしたいと思っております。

皆さんと一緒に子どもたちと関わり、その様子を交流する中で、子ども達の遊びの意図や育ちについて、共に考え合ったり、理解を深めたいと思います。ご協力よろしくお願ひいたします。

1 子どもたちの姿について

入園・進級から半年が過ぎた今、一人一人がその子らしさを発揮しながら、園生活を楽しくむようになっています。

数人の気の合った友達とのつながりの中で、自分なりの遊びをする楽しさや友達と一緒にいることを楽しんでいるこの頃ですが、偶然のきっかけから新たなかかわりが生まれ、いろいろな友達のおよそを知ったり、友達から刺激を受けて遊びの幅を広げていったりする姿も見られるなど、友達とかわる中で自分の世界が広がってきているように思われます。

<4歳児の発達>

4歳児は、想像力が豊かに発達してきて、見立てやつもりの世界に浸って、ごっこ遊びを楽しむ年齢です。ごっこや牛乳パックの筒などを用いて、自分たちの遊び場を作り、遊びに必要なものを持ち込んだり、必要に応じて作ったり、役割を決めたりしながら、遊びのイメージが形作られていきます。

<4歳児のごっこ遊び>

保育室でも園庭でも、お家ごっこ、基地ごっこ、戦いごっこ、お店ごっこなどが展開されていますが、4歳児のごっこ遊びは、お母さんが3人だったり、恐竜が料理を作っていたり、役も状況設定も柔軟に変化していきます。しかし、そこに不自然さを感じることなく、遊びを楽しんでいます。自分なりにイメージを表す喜びや、自分のイメージと友達のイメージがつながり、ひとときでも一緒に感覚が特るところにおもしろさを感じているように思います。

<ものとかかわる中で>

子ども達は、粘土や紙類を使ったごちそう、武器、遊びに使う道具、身につけるもの、泥だんご、草花を使ったごちそうなど、いろいろなものを作りながら遊んでいます。作ること自体が遊びであり、あれこれのものとかわりながら、イメージするものを作り上げていくおもしろさや喜びを味わっています。没頭してものとかかわる中で、ものの性質を知ったり、自分自身と向き合ったりする経験を重ねています。

かかわり方をイメージしてあげよう

<思いっきり体を動かして>

仮設砂場を撤去し、思いっきり走ることでできる環境を用意しました。体を思いっきり動かして遊ぶのにも心地よい季節になり、子ども達は友達と一緒に走ることや全力で走り抜ける気持ちよさを味わっています。また、固定遊具も様々なイメージに見立てて遊ぶ中で、登ったり降りたり、友達の動きを真似したり、様々な動きを楽しんでいます。

2 保育参加にあたって

(1) 遊びの援助について

- 以上のような姿を踏まえ、子ども達の育ちを促していくために、次のような援助を心がけていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。
- 一人一人のやっていることをまずは受け止め、それぞれが何を楽しんでいるのか探ってみましょう。
- 何人かの友達と場を共有して遊びが始まったら、一人一人のやっていることに共感したり、一人一人のイメージを引き出し、周りの友達に伝えたりして、遊びのイメージのつなぎ役をしてあげましょう。また、仲間の一員として遊びに加わり、なりきった動きや言葉を発しながら、つもりの世界がより楽しくなるようにしてみましょう。
- 自分なりにイメージしながら物づくりに取り組んでいたり、木登りや鉄棒、雲梯など、自分なりのめあてを持ち挑戦したりしているときには、自分でやり遂げられるように、共感したり、励ましたりしていきましょう。どうしても難しそうところは手伝ったり、こうしたというイメージが実現できるようにアイデアを提供したりしていきましょう。
- トラブルの場面では、まずは子ども達で解決していく様子を見守りましょう。子ども達だけでは解決できないようなときには、どちらが良いとか悪いとか仲裁してしまうのではなく、それぞれの思いを引き出したり、代替したりしていきましょう。トラブルをマイナスと捉えずに、それぞれに思いがあることに気付く貴重な体験の場にしていきたいものです。

(2) みんなでやる活動での援助について

4日間、次のような活動を予定しております。保護者の皆さんにも、素材に触れたり体を動かしたりする活動にかかわっていただきながら、活動を楽しんでいただきたいと思います。

8日(火)	身体を動かして(つばき)	製作(さくら)
9日(水)	製作(つばき)	身体を動かして(さくら)
16日(水)	身体を動かして(つばき)	製作(さくら)
17日(木)	製作(つばき)	身体を動かして(さくら)

(3) お願い

- ・動きやすく、汚れてもよい服装でいらしてください。
- ・カメラやビデオでの撮影はご遠慮ください。
- ・お子さんとじっくりとかわっていただきたいと思っておりますので、小さいお子さんの参加は、ご遠慮いただければ幸いです。

幼児の育ちを理解して臨もう

資料14 朝の打合せ資料

予想される遊びと、保育者の援助・配慮

平成27年9月8日(火)

本日の保育参加、よろしくお願いします。

★昨日までの様子では、子どもたちは下図のような遊びを楽しんでいます。本日も同じになるかは限りませんが、子どもたちの様子を見ながら子どもたちの遊びが楽しくなるように、状況に応じて適宜かかわっていただきたいと思ひます。

★子どもたちが楽しんでいることに共感しながらおうちの方も一緒に楽しみましょう！

製作

- ・武器やおしゃれアイテム、何かに必要なためのアイテム(恐竜や虫など)、おいしいものなどを作って楽しんでいます。作ったものを使ってごっこ遊びも楽しんでいます。
- ・製作のアイデアなど一緒に考えたり、仲間の一員として同じものを作ってみたりしていきましょう。

まきごと・お店屋さんごっこ

- ・お家を作って、粘土でごちそうを作ったり、赤ちゃんのお世話をしたり、おいしいものを売ったり…
- ・お子さんと一緒になりきって楽しんでみましょう。



森の探検

- ・虫探し、悪者退治、木登り……。森の中は楽しいことがいっぱい！
- ・お子さんのイメージを受け止めながら探検を楽しみましょう！

ごちそう・色水づくり

固定遊具での遊び

- ・遊具を乗り物やお城などに見立てたりしながら遊んでいます。
- ・色々なことができるようになるのが嬉しくて、挑戦する姿も見られます。できた喜びを共有しながら、一緒に楽しみましょう。

固定遊具
滑り台・アスレチック
ジャングルジムターザンロープ等

サッカー

- ・ボールが複数個あってもOK！柔軟なルールの中で、一緒に思い切り体を動かして楽しみましょう。

かけっこ、鬼ごっこ

- ・思い切り体を動かす気持ちよさ、友達と動く楽しさなどを味わっています。

ごちそうづくり

- ・砂や土、水、草花など、園の自然を使って、様々なごちそうを作って楽しんでいます。飾り方にこだわる姿も！
- ・型やポウルなどを使って、ケーキなどを作ってみても楽しいですよ！



砂場

色水づくり

- ・幼稚園には様々な草花があります。様々な色のものを作ったり、それをジュース等に見立てたりして楽しんでいます。

シャボン玉

- ・シャボン玉の美しさや、高く飛んでいく様子などを楽しんでいます。どうすれば大きくなるかなど考えながら、工夫して遊ぶ姿も見られます。

シャボン玉

さくら組 保育室

つばき組 保育室

積み木

- ・基地や乗り物、おばけやしきなどを作って、楽しんでいます。様々な構成の仕方を工夫する様子も見られます。
- ・安全に気を付けながら使えるように配慮をお願いします。

砂場での遊び

- ・山を作ったり、穴を掘ったり、水を入れたり…。子どもたちは、川や海、温泉などに見立てて遊んだりしています。かいっぱい掘ったり積んだり、ダイナミックに遊んでいます。
- ・お家の方も、子どもに帰ったつもりで、思いっきり楽しんでみてはいかがでしょう！

どこでどんな遊びが展開されていたかを知らせるとともに、どんなかかわりをすればよいか見通しを持てるようにする

資料15 ミーティングで伝えたいポイント（担任打ち合わせ用資料）

伝えたいポイント

○様々な遊びの中で、総合的に様々な経験を重ねている。
 ○その経験が、この後の学びや生きていく上で必要な力の基盤、土台になっていく。

- ・イメージの中で遊ぶ・・・想像力
- ・必要なものを製作する・・・手先を動かす、考える、道具や材料の使い方や特徴を知る
- ・積み木などで場を構成する・・・形などの特徴、空間認知、考える、想像する
- ・様々な身体を動かす・・・基本的な動きの経験、走る、跳ぶ、登る、下りる、くぐる、バランス…
 何かをトレーニング的に特化して鍛えるのではなく、様々な動きを総合的に経験していくことが、運動能力の高まりにつながる（データあり）

○心を動かして遊ぶ経験

- ・心に残る体験。自分のものになる体験となる。さらには、「やってみたい」「もっと、もっと」と次への意欲にも。

○人（友達）とかかわって遊ぶ楽しさを味わっている。

- ・一緒にいるとなんだか楽しい！偶然の出会いもある。
- ・自分以外の友達、自分とは違う考えをもっている存在と感じる（トラブルの場面なども）
- ・相手の気持ちや状況を感じて行動しようとする
- ・一方で「自分」も大事にしたいところ。
 （“友達と一緒に”が優先で、“自分のやりたいこと”が二の次になってしまう…
 →本当の遊びの充実になりにくいところもある）

○運動会にかかわる経験も、総合的に。

- ・体を動かすことも、イメージの中で楽しむ姿（ワカメやドロップを食べる、お魚歩きかに歩き…）
- ・体を動かすだけでなく、身体表現、造形的表現など、様々な表現する経験も重ねていく。まさに“総合的”

○おうちの方も環境の一部。お家の方の存在が賑わいを呼んで、遊びたい意欲に。

実践記録8 年中組ミーティングの実際（抜粋）

保護者

A

年少組の時に比べて、体の動きが機敏になってきましたね！海のイメージで遊んでいて、平均台の渡り方も工夫していました。

B

〇〇ちゃんはちょっと内気な感じ？平均台をなかなか渡らなくて。でも、後ろに並んでいた男子、早く行けと言わず待っていてくれて。

C

先生の声かけが参考になりました！△△ちゃんが人の絵を描いていて、顔を茶色で描いていたので「茶色？」と言ってしまいました。そしたら△△ちゃん、絵を隠すようにしたんです。髪が赤、目がピンクだったのですが、その絵を見た先生が「素敵！ファッションショーに出てくる人みたい」と声をかけたら△△ちゃんが嬉しそうにしました。普段、どうしても「目は黒でしょ」とか言ってしまいがちなので…反省しました。

担任

運動的な遊びに興味関心をもって欲しいと考え、お魚のイメージで楽しみながら体の動きを引き出せるような環境を用意しました。昨日までは平均台はすぐに遊べるように設定しておいたのですが、今朝わざと片付けておいたら、今日は昨日までよりも長いコースを自分達で作っていました！

新しいことにすぐ一歩踏み出せる子と、納得してから動く子、それぞれの個性がありますよね。よく見ていただいてありがとうございます。





クラスだより

さくら

No. 8

H27.9.25

岩手大学教育学部
附属幼稚園

保育参加 ありがとうございます

4日間に渡り、保育参加を行いました。子どもたちはおうちの方ともすぐに“仲間”になって、一緒に遊んだり様々な活動をしたりしていましたが、どちらの表情を見ても、とっても楽しそうだなあ、幸せそうだなあと感じました。おうちの方が楽しく、夢中になって遊んだり、真剣に取り組んだりする姿がよい刺激となり、子どもたちの遊びの意欲になっているなあと感じる場面もたくさんありました。園での生活、子どもたちの姿を実際に肌で感じていただけたことと思います。

また保育後のミーティングでは、子どもたちの姿から感じられたことを土台に、子どもたちの遊びや発想の面白さ、成長しているなあと思ったこと、日頃感じていることや悩みなど、様々なことが話題となりました。今ある子どもの姿をどのように感じ、受け止めていくかという大事なことを、様々な見方、考え方に触れながら話すことができ、担任にとってもはっとさせられることが多々ありました。おうちのみなさんにとっても有意義な時間だったと感じていただければ幸いです。

☆遊びやクラスでの活動の様子を、 ミーティングで話題になったことを交えてご紹介しましょう

森のキッチンでの色水作り

ミントやバジル等のハーブの葉をすり鉢を使って、すりつぶすと、とってもいい色と香りの色水ができます。ある子が始めたその色水づくり。色水そのものの素敵さはもちろんですが、「すり鉢を使う」という新しいやり方や、友達やおうちの方が楽しそうにやっている姿など様々な魅力が重なって、次々と色々な子に「やってみたい」と伝播していったようでした。これまではあまりやったことがない子も、足を止めてじっと見ていたところをおうちの方に誘ってもらって始められたということもあったようです。

「どうやってやるの?」と聞くと、「こっちにこの葉っぱあるよ。」「ミントを〇枚、バジルを〇枚合わせるとこうなるよ。」と自分なりの調合の仕方を教えてくれる姿もあったようです。

また、自分のお母さんが来たら絶対これを一緒にやりたいという思いをもって、保育参加の日を楽しみにしていて、葉っぱだけではなく木の实や花なども使って色水作りを楽しんでいたようでした。

様々な素材を生かして遊ぶ姿に…

「自分達の幼稚園のことを知り尽くしているんだなあ。」「子どもなりにいろんなことを考えているんだなあ。」と感心しました。



色水を作りながら…

子どもたちは遊びのことを話しているだけではなく、「世間話」のようなことも遊びの中でいっぱいしているんですね。やっぱり「下ネタ」は大好きで。誰かが話すと一緒になって大笑いしていて、この時が一番盛り上がりかかっていたかも…(笑) その姿を見ているのもとっても楽しかったです。つばき組に転園してきたお友達のことも話題になっていて、そういうこともわかっているんだなあと思いました。「同じ名前だから、早織先生の子もなんじゃね?」ということになり、また「ぶひゃひゃっ」と大笑いしていました。子どもの世界って面白いですよ。

*言い回しなど多少変わっているところもあるかと思いますが、ご了承ください。



クラスだより

つばき



No.10
H27. 9. 30
岩手大学教育学部
附属幼稚園

保育参加ありがとうございました

4日間の保育参加ありがとうございました。お家の方には、お魚とサメになっての鬼ごっこや平均台、トンネル、ハードルなどの体を動かすコースにかかわってもらい、ホチキスを使ったブドウの製作やローラーを使ったぬたくりでの海の製作活動を一緒に盛り上げて頂きました。子どもたちは、いつもとは違った特別な環境に嬉しさいっぱい、どの日も張り切っていました。それぞれの日の活動をみんなで楽しんだり、お家の人やお友達のお家の方と一緒に元気いっぱい身体を動かして遊んだりすることができました。多くのお家の方とかわって、一緒に遊びを面白がったり、それぞれの成長の様子を見つめたりして頂き、とても貴重な体験となりました。

保育後のミーティングでは、お家の方々から心温まるエピソードをお話頂き、担任として、子ども達の成長を見直すいい機会になりました。一部ですが、子ども達の育ちや遊びの姿で、共通して話題になったことがありましたのでお伝えします。

鬼ごっこをしていて、タッチされたかされないかの言い合いになった。一緒に遊んでいた子が、「どうしたの?」と聞いて、間をとりもって解決しようとしていた。それを素直に受け入れている姿も見られた。子ども同士で考えているんだなあと感じた。

降園準備の時に、隣に座っている子が水筒を忘れていないことに気付いて、小さな声で「〇〇くん、水筒忘れてるよ。」と耳に囁いて教えてあげていた。それを見ていた〇〇ちゃんも、近くにいた〇〇くんにも、同じように、「〇〇くん、水筒忘れてるよ。」と教えてあげていた。

子どもが楽しんでいる探検遊び。どんなふうになっているのか興味があったが、実際に遊んでいる様子を見て、楽しさを感じることができた。園の環境にある木などを恐竜にしたり、そこには存在しないものを敵に見立てたりしながら、自分達のイメージの中で楽しんでいることが分かった。それぞれ子ども達の話していることがつながっていることが面白いと思った。

一人で箱を持って動いていた〇〇ちゃん。なんとなく目が合って声を掛けられ一緒に動き出した。何をしようか決まっていなかったが、ただ一人でいて寂しくいたのではなく、『花を摘んで宝の箱に入れてプレゼントしたい』という思いを持っていた。友達と一緒になくても、やりたいことがあって動いていることがあるんだと思った。

片付けの時に、製作コーナーに置いてあったものを「これ誰のかな?」と周りの子に聞くと、一緒に遊んでいた子ではない子が「これ〇〇くんのだと思っよ。」と答えていた。それぞれ別な場所で、違う遊びをしていますが、お互いに誰がどんな遊びをしているか、感じ取りながら動いていることがすごいと思った。

友達とぶつかり合ったりしながら、友達とのかかわりを学んでいます。少しずつ、周りの状況を察して、間を取り持つ子や優しく声を掛けてくれる子が出てきて関係をつなげてくれています。

想像力が豊かに発達し、見立てやつもりの世界に浸って、ごっこ遊びを楽しむのが4歳児の姿です。自分なりにイメージを表す喜びや、自分のイメージと友達のイメージがつながり、一緒に感覚を持ちながら面白さを感じているように思います。

自分がやりたいと思うことを心ゆくまで楽しんだり、夢中になって遊び、満足感を味わったりする体験が大切です。

子どもたちは、周りの状況をよく捉えています。誰が遊んでいる場所、誰が使っているものという区分がつくということは発達上重要です。



3歳児のクラスも、基本的に同様の手順を進める。そのミーティングで**実践記録9**のような保護者の気付きや学びが生まれた。

実践記録9 3歳児ミーティングでの話題（抜粋）

<言葉の育ち>

保護者A：語彙が増えてきた。友達が言っていることを取り込んでいる。「シャインマスカット」と言っていてびっくり。家では親がまだわからないだろうと勝手に判断して、「緑のブドウ」と言っていたが。

保護者B：我が家では祖父祖母もいて、キャンベル、シャインマスカットなど普通に使っているので子どもも取り込んでいると思う。

担 任：それぞれの家庭で獲得してきた言葉が混じり合って豊かになっていく。その中で、嬉しい言葉、悲しい気持ちになる言葉などを感じ取り、上手に取捨選択していけるように保育者など大人の価値も伝えながら過ごしている。

<一人で遊ぶこと>

保護者C：うちの子は一人で遊んでいて、それが悪いとは思わないが、まだ人とのかかわりまでは行かないのかなと感じた。

担 任：形の上では一人でいても、周りでどんなことが起こっているか、みんなが何をしているかアンテナを張っていて、誰かが笑うと一緒に笑ったりと人とのかかわりに関心が高まっている姿が見える。形にこだわらなくても大丈夫。

<トラブルの対応>

保護者D：自分の子の髪を引っ張った子がいて、でもちょうど昨日聞いた講演会で、子ども同士で解決することが大事という話を聞いたので、あえて見守ってみた。そうしたら、程なく子ども同士で解決し、何事もなかったように一緒に遊び始めていた。きっと次に同じようなトラブルがあったときに、経験を基に自分達でよりよく解決していけるようになるのだと思う。大人が入って、謝らせるといった形式上の対応をとらなくてよかったと感じた。

保護者E：うちは一人っ子で、今までトラブルの場面に親自身が遭遇したことがなかったが、今日そういった場面に出会い、どうしてよいか分からなかったときに、Fちゃんのお母さんが上手に対応していて感心した。

保護者F：うちのFとGちゃんは2歳の頃から一緒になることが多くて、1つのものをよく取り合っていた。今日も砂場でいつものように一つの山を巡って取り合いになったが、山をもう一つ作ってやったら、それで解決することができた。それを見て成長したな、と。Gちゃんのお母さんとこれまでもトラブルを含めてお互いに見守ってきていて、今日はどちらの子も成長している姿を見ることができて嬉しかった。

担 任：3歳は人とかかわる経験も少なく、まだまだ自分の思いを通すことが先行する時期。でも、ぶつかり合うからこそ、自分と同じように相手も思いをもっているんだなど気付くことができる。かっとなっているときには受け入れられなくても、少し落ち着いてくると相手の思いも見えてきて、子どもなりのいろいろな方法で気持ちを通わせていくようになる。ただ「ごめんなさい」ではなく、そう思えるようになるまでのプロセスを大事にしたい。どう行動するか、最後に決めるのは子どもたち。





5歳児のクラスは、クラスを越えて遊びが広がる状況にあるため、ミーティングでを2クラス合同で行い、この時期の育ちについて確認した。**実践記録10**のような保護者の気付きや学びが生まれた。

実践記録10 5歳児ミーティングでの話題（抜粋）

<自己課題に取り組む意識の育ち>

保護者A：女の子より男の子の方が慎重な感じがあったが、男の子は女の子が登っているのを見て、まねてできるようになっていった。

担任：年中の時にアスレチックの横から登るといって自己課題に取り組んでいた子達。諦めないことが肝心と、自分なりに頑張って達成感を味わってきている。また、誰かができるようになると触発されてやってみようと思う気持ちが出てきている。それは、これまでの関わり合いで仲間意識が育ってきているからこそだと思う。

<「憧れ」のモデルの存在>

保護者B：我が子ではなく、よそのお子さんの成長ぶりに感動した。去年の保育参加では大人を頼りに遊んでいたが、今日は友達を頼りにしていた。一緒にままごとをしたが、草でもこれは包丁で切りやすい、切りにくい、と体験で学んでいる。チューリップの咲き終わった芯の所を切って「お花みたいでしょ」と。子どもが切らなければ気付かなかった。我が子も、家で上の子に教えていること（みじん切り、笹がき）を園で再現していた。家で体験できないことを幼稚園でやって満足しているんだなあと感じた。小さい組の子が横目で「いいなあ、包丁」と憧れて見ている。片付けの時には、小さい組に頼まれたものを洗ってきれいにしている。

担任：大きい組になった自信もあるし、前の大きい組の姿を見て学んでいる。よい伝統のようなもの。包丁を使い始めたのも、唐突に入れたのではなく、タケノコをお料理に使うために必要があって取り入れた。「すごく危ないものだけど、丁寧に使おうね」ということで。はじめは切ること自体が楽しかったが、手慣れてきて、今はお料理をイメージしてそれに合わせて使いこなしている。

<状況や相手に応じる姿>

保護者C：転がしドッジボールをずっとやっているとお飽きるのかなと思っていたら、人が減ったら白い小さい円、増えてきたら黄色い大きい円に移動すると楽しくできると考えながら動いていた。片付けの時も、重いものは2人で運ぶなど、協力し合う姿が見られた。

保護者D：お寿司屋をやっていた子、やり方を大人には言葉で説明し、はじめて仲間に入った子には、実物を使って教えていた。相手に合わせている。セロハンテープの貼り方、縦に使った方が節約になるし、海苔巻きを切ったときに外れないということ、「そういうふうによればできるって、今まで何回もやってたからわかるもん」と。

担任：相手に合わせて待つ姿なども見られる。一緒に楽しく遊びたいから。今までには見られない姿。…お家の方の話を聞いて、我が子もよその子も分け隔てなく、一緒に育ててくださっていると感じた。そういったお家の方の姿が、優しい子ども達を育てていると感じた。



(5) 園と共に子育てをする意識を高める参加型園行事

「ちびっこ夏祭り」

＜花巻市立湯本保育園＞



要素B・C・D

(学習や体験の機会の保障・共
感的関心・発達の見方)

◇ 園行事を保育参加に位置付ける

- ・昨年度までは参観として行っていた「ちびっこ夏祭り」を参加型行事に変更した。ニコニコせんせい体験同様、参観だけよりも、幼児と共に活動することで幼児へのかかわり方を学んだり、幼児の発達の様子を感じ取ったりでき、子育ての意欲を喚起できる。そのために、夏祭りのねらいを園児と保護者両方について設定した。

＜園児にとってのねらい＞

- ・保育者や友達と一緒に夏祭りに向けての準備をしたり、お店のやりとりを楽しんだりする。
- ・自分達でやり切った満足感を味わう。

＜保護者にとってのねらい＞

- ・保護者も夏祭りを進める一員となり、園児や他の保護者との交流を深める。
- ・園児にとってのねらいを知り、園児へのかかわりを工夫しようとする。

◇ プロセスを伝えるおたよりを発行する

- ・「ちびっこ夏祭り」に向けて、幼児がどのような思いでどのような活動してきたか等、プロセスを知らせるクラスだよりを発行し、保護者が幼児の思いに共感しながら当日を迎えられるようにする。

…資料 18

◇ 当日の園と保護者・幼児の打合せ「作戦タイム」をする

- ・子どもたちが企画して進めている夏祭りでのお店屋さんにもどのようにかかわり、援助していったらよいかを打合せる親子一緒の「作戦タイム」を実施した。約30分の時間の中で、これまでの子ども様子や思い、行事の意図を知らせたり、保護者同士が交流したりする時間も設けてミニ懇談会を兼ねた。…資料 19

準備・

手順

- ① 行事を通して幼児に育てたいこと、保護者に経験して欲しいことを洗い出し、それが実現できるような計画を立てる。
- ② 幼児の活動の様子や育てていることなどをお便りで知らせると共に、当日も幼児と保護者で打合せの時間「作戦タイム」をとり、一体感が増すようにする。
- ③ 事後に保護者の感想をもらい、写真と共に園だよりで発信する。

資料18 プロセスを知らせるクラスだより



夏祭り準備号

平成27年7月10日

子どもたちが楽しみにしている“ちびっこ夏祭り”まであと一週間となりました。子どもたちは、夏祭りに向けて様々な準備をしています。

どんなお店屋さんにしようかな？と考え、きりん組が決めたお店は…

『手裏剣グッズ屋さん』 『ハブラシコップ屋さん』です。

共に、折り紙を使った品物です。朝の自由遊びに「折り紙がしたい!!」と、本を見ながらいろいろな折り方を楽しむ、きりん組ならではの店決定でした。お店が決まってからは、さらにやる気満々で、黙々と手裏剣やハブラシコップを折り続ける子が続出!!

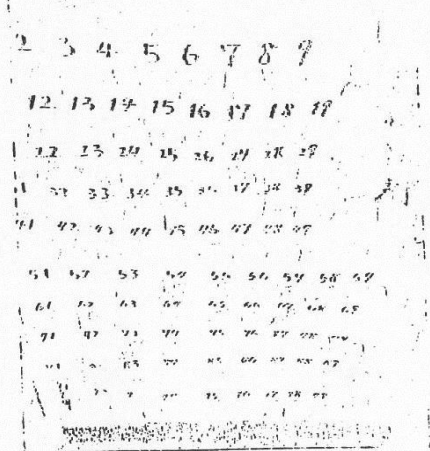
ひよこ組からきりん組まで全員の品物を作るために“目指せ！手裏剣100個”“目指せ！ハブラシコップ50個”を合言葉に取り組みました。すると、あっという間に目標個数達成！「100個出来たよ〜！」と大喜びでした。「みんなで作るとあっという間だね！」と、友だちと協力することの心地よさを感じた子もいたようです。

お店の看板作り、歌や盆踊りの練習…と、夏祭りが近づくにつれ、子どもたちは意欲的になり、張り切っているいろいろなことに取り組んでいます。

当日は、親子でお店屋さんになりきって品物を売ったり、わにわにパニックゲームでワニを動かしたりします。これまで、準備を重ねてきている子どもたちは、当日も張り切ること間違いなしです!!

子どもたちの気持ちを大切に一緒に盛り上げていきましょう!! 詳しい内容については、当日お話しします。

よろしくお祈りします!!



※お店屋さんに変身するため、子どもたちは保育園の豆しぼりを頭に巻きますので、お家の方も当日、豆しぼりをご用意ください。(ご家庭にない場合は、お知らせください。)

資料 19 「作戦タイム」資料（抜粋）

みんなで楽しもう！
ちびっこなつまつり大作戦

平成 27 年 7 月 17 日
花巻市立湯本保育園
きりん組・ぱんだ組

今日は、ちびっこなつまつりにおいで下さり、ありがとうございます。
今回のちびっこなつまつりは、おうちの皆さんにもお店屋さんになって頂き、お子さんと一緒に盛り上げて頂きたいと思い、企画いたしました。どうぞ、ご協力をお願いします。

各クラスのねらい
きりん組・・・子ども達が主体となり、お店のやりとりを楽しんだり、やりきった満足感が味わえるようにする。（おうちの方と一緒に行事で、意欲がさらに増すのでは？）
ぱんだ組・・・「どれにしますか？」「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」など、知っていることばのやりとりをしながら、お店屋さんになってみる。
（おうちの方と一緒に行事で、安心して、楽しく、ごっこ遊びができるのでは？）

お店のお仕事（して頂きたい事）
子ども・・・スタンプ押し・呼び込み・品物の補充・品物を渡す
保護者・・・スタンプの確認
子どもの様子に応じた声掛け
例 やりたい事がちがひ、トラブルになるかも・・・
どうしていいかわからず、もじもじ・・・
やりとりが上手！感心！・・・ほめる声掛け

ちびっこ夏まつり係分担表

お店	職員	1グループ	2グループ
しゅりけん (きりん組)			

* 後日、保護者役員会でも「ちびっこ夏祭り」が参加型になったことが好評で、保護者会報にも取り上げられた。また、その話し合いの中で、次に行われる行事に対しても積極的に参加したいという声があった。・・・資料 20

資料 20 保護者の声（保護者会報から抜粋）

ひまわり

平成 27 年 8 月 24 日
湯本保育園
保護者会報 第 2 号

8 月 1 9 日(水)、第 2 回保護者会役員会が開催されました。主な内容は親子遠足とちびっこ夏祭りの反省、および、9 月 2 6 日(土)に行われる親子運動会についてです。その主な内容をご報告致します。

ちびっこ夏祭りについて 意見・感想

日程：7 月 1 7 日(金)

- ★ きりん組・ぱんだ組はお店の売り子に挑戦したが
→親子で一緒に売り子ができ子供達同士の関わりを見たり、お友達ともふれあう事ができ、とても楽しかった。
→お客さんの呼び込みも大きな声を出して頑張っていた。
- ★ ワニワニパニックのワニガリアルで怖がっていた。
- ★ とても楽しかったようで、今でも夏祭りで買い物した品物を大事に取っている。

⇒ 先生方の工夫と配慮によりとても楽しいちびっこ夏祭りになりました。先生方に感謝です！！

(6) 親子のかかわりを深める親子絵本貸出

<九戸村立幼稚園ひめほたるこども園>

ポイント

要素B・C・D

(学習や体験の機会の保障・共感的関心・発達の見方)

◇ 読み聞かせの意義を伝えるおたよりを配付する

- ・5年前の開園当時から行われている絵本の読み聞かせがなぜ大切なのかを、改めておたよりに通して各家庭に知らせる。[資料 21](#)

◇ 絵本の部屋のレイアウトを工夫する

- ・これまでは、書棚に並べてある本から子どもが自分で選んで借り、保護者はそれを見守っていたが、季節毎のおすすめ絵本等をテーブルに置いて見やすくしたり、おすすめの言葉を添えたりすることで視覚に訴え、それをきっかけに親子のコミュニケーションが図られるようにレイアウトを工夫した。…[写真 1](#)

◇ 読み聞かせに関するアンケートをとる

- ・家庭での取組の実際や子どもの様子、読み聞かせをしたことでの子どもの育ちや変化等について振り返ってもらい、改めて絵本の読み聞かせの意義について保護者の意識化を図るとともに、園の今後の働きかけや取り組み方法の改善に反映させる。…[資料 22](#)

準備・

手順

- ① 読み聞かせの意義や、親子絵本貸出の方法等について園内で確認の上、保護者に発信する。
- ② 絵本を読み聞かせしているときの幼児の様子やつぶやきを記録してもらい、後日アンケートに記入してもらう。(絵本カードという形で、毎回感想や様子をかいでもらってもよい)
- ③ 読み聞かせをして感じたこと、発見したこと、子どもの育ちなどをアンケート結果等も用いながら園だより等で発信し、保護者と共有する。

平成27年5月18日

保護者各位

ひめほたるこども園

○絵本の読み聞かせについて

ひめほたるこども園の子ども達は、絵本大好きな子が多いですね。ほとんどの子が毎日、借りているようで感心しています。保護者会の実践目標にも「家族で本に親しもう。」が掲げられていますので今後も力を入れていきたいですね。

ここで読み聞かせの大切さについてちょっと触れたいと思います。



★絵本の読み聞かせの大切さ

絵本の読み聞かせは、親子の絆を強くするものだと思います。「お父さん、お母さんの温かい膝とやさしい声で愛情込めて読んであげる。」これに勝るものはありません。

近年、親子が一緒に過ごせる時間が短くなったといわれています。希薄になっていく親子の時間や絆を一気に取り戻してくれるのが絵本の読み聞かせです。忙しくて疲れているとつい今日は、やめようかなと思うこともあるかもしれませんがほんの少しの時間でいいので「一緒に絵本見ようね。」と子どもの心に向かって読んであげてくださいね。自分のために一生懸命読んでくれているお父さん、お母さんの姿が子どもにとって何よりも嬉しい大切なことでしっかりと心に残ると思います。そして、同じ時間を共有しながら共に考えたり感動を分かち合ったりすることによってさらに心が育まれ「考える力」や「集中力」が養われると思います。

ということで・・・読み聞かせの大切さについて少しわかっていただけたでしょうか？

中には、「字が読めるから一人で読んできたー。」という子がいますがそういう子は、字を読むことに集中しその本のおもしろさなど十分に感じ取れないと思います。自分で読むのもいいですがその前にまず、おうちの人を読んであげることをお勧めします。これからいろいろな本に親しみ親子の絆を深めたり想像力を養ってほしいと思います。

※金曜日の親子貸し出しデイのご協力も今後ともよろしくお願いします。

※家庭での絵本の読み聞かせの中でわが子の様子や発した言葉で印象に残ったことがあったら何かに書きとめておいてほしいです。とても興味があります。後日、絵本の読み聞かせについてのアンケート調査をしたいと思っていますのでその際にお知らせいただきたいです。



写真1 絵本の部屋のレイアウトの工夫



資料 22 読み聞かせに関するアンケートと園の職員の所感

<主な調査項目>

- ・何才から読み聞かせを始めましたか
- ・読み聞かせをはじめたきっかけは何ですか
- ・主に誰が読み聞かせをしていますか
- ・園の絵本を借りるとき、絵本は誰が選んでいますか
- ・読み聞かせはいつしていますか
- ・お子さんは絵本が好きですか
- ・読み聞かせをしたときのお子さんの様子やつぶやきを教えてください（記述）
- ・読み聞かせを通してどんなことが育っていると思いますか（記述）
- ・その他感じていること（記述）

<保護者アンケートのコメント>（抜粋）

- ・随分読み聞かせをしていませんでしたが保育園からの手紙で改めてまた読み聞かせを開始しました。（5歳児）
- ・「おへそにきいてごらん」を読んであげたときのこと、自分のおへそと私のおへそをめぐって出して「へその緒でつながってたの？ママから栄養もらって…だからこんなに大きくなったんだね～、ママありがとう」と言われてジーンとしてしまいました。（5歳児）
- ・絵本の主人公の気持ちになって怒ったり泣いたり喜んだり安心したりと読んでもらいながら結構いろいろな表情をしたり、気持ちを横で言ったりしています。悲しかった場面ではずっと見てポロポロと泣いていたりします。（5歳児）
- ・いつも寝る前に必ず読んでいます。忙しくてなかなか抱っこやスキンシップがとれない中で大切な親子のふれあいです。子どももそれで安心して眠ることができるようですし、内容に関しては、笑ったりジーンと真剣に見入ったりと楽しんでいるようです。ふとした会話の中で「〇〇の本でさあ」とずっと前の本の内容を覚えていたりして、ちゃんと聞いているんだなと思います。（4歳児）
- ・心が育っているのかな、と感じます。登場人物の行動や心情を読み取りながら、自分だったらどうかな？と考えているようです。（4歳児）
- ・絵本の場面を自分と比較して「〇〇は～だけど、ぼくは～だね。」と言っていることがあって、内容を理解し自分に当てはめて考えていることがわかって感心した。（3歳児）
- ・想像力が広がっていると思います。親でも余り言わないことを言ったりするのでびっくりします。表現が豊かでおもしろいです。（3歳児）
- ・「ひっくひっく、しゃっくりひっく…」など、何となく残るフレーズを親子で楽しんでいます。（3歳児）
- ・ノントンの絵本のフレーズを繰り返したりしています。「いいな！いいな！」「ノントンの～」（2歳児）
- ・母が1回だけ好きと言った絵本をよく借りてきてくれるようになり、その本をバッグから取り出すとき、すごく嬉しそうな顔をして持ってきます。（2歳児）

<園の職員の所感>

- これまで、たくさんある本の中か子どもが自分で選んで借りていたが、季節に合った本を見やすく置くことで、親子で手にとって「どれにする?」「これ、おもしろそうだね。」と言葉を交わしながら選ぶ姿が見られた。
- 同じ本ばかり借りていた子もおすすめ絵本にも興味を示すようになった。
- 絵本の部屋が憩いの場になり、親や祖父母が子どもや孫の話、世間話を楽しそうにする姿が見られ、親子だけでなく保護者同士のコミュニケーションの場として活用されている。
- 絵本の読み聞かせを通して、楽しさを親子で共有することで親子のふれあいが深まり、子育ての楽しさを味わうことができているようだ。そのことが、子どもの気持ちの安定にもつながっていると感じる。



3 相談・援助型支援

支援の例

- 個別面談
- 家庭訪問
- 送迎時の会話
- 連絡帳
- 電話等による相談 等



保護者にとってのメリット

- ・ 子育ての不安を解消することができます
- ・ 我が子を別の視点から見ることができ、幼児理解が深まります
- ・ 園との信頼関係が築かれます



支えとなる保育の質を保つための視点

- ・ 幼児一人一人の育ちを適切に見取り、援助の方向性を明らかにしていること

チェック

- 日常的に、気軽に話せる雰囲気をつくる園全体で作っているか。
- 話を共感的に受けとめ、指示的にならず一緒に考える姿勢を大切にしているか。
- アドバイスはするが、最終的には保護者が自己決定をできるようにしているか。
- 相談等では個人情報等を漏洩しないよう職員間で共通確認されているか。

(1) 個人差に配慮した送迎時の対応及び連絡帳の活用

<盛岡市立太田幼稚園>

ポイント

要素A・B・C・D

(園と保護者の信頼関係・学習
や体験の機会の保障・共感的
関心・発達の見方)

◇ 送迎時に日常的に直接かかわる

・本園では保護者が送り迎えをしているので、毎日送迎時に顔を合わせることができ、担任や園長と小さなことなども情報交換することができる。人数もそれほど多くない園なので、一人一人の様子を見ながら声をかけやすく、園での様子を伝えたり、家庭での様子や体調などを聞いたり、何か特別なことがあった時ではなく、日常的に言葉を交わし、相談事がある場合にも日常の会話の延長線上での話、といったように話しやすい雰囲気を作るように心がけている。日々の細かな支援が大きな問題の発生を防ぐ。…[実践記録 11](#)

◇ より詳細な情報のやりとりのツールとして連絡帳を活用する

・送迎時に話す時間は短いので、詳しく伝えたいことなどがある場合は連絡帳を活用している。周りの保護者の目を気にせず、双方とも思いを整理しながら伝えることができる。…[実践記録 12](#)

準備・

手順

- ① 日常的に園児一人一人の様子を丁寧に見ていき、いつでも様子を伝えられるようにしておく。
- ② 保護者の様子もよく見て、こまめに声を掛け、話しかけやすい雰囲気を作っておく。
- ③ 連絡帳には、具体事例も盛り込みながら、たとえ問題と思われる事柄がメインの場合でも、その子のよさも伝えるようにする。



実践記録 11 登園が遅れがちな幼児への対応（5歳児）

登園がいつも9時過ぎになっている幼児は、登園が遅いため、他の幼児が遊び始めている遊びの中になかなか入れないでいる姿が目立つようになった。少し早く登園できたときには誉めたりし、時計も意識させるよう声を掛けたりしてきたが、本人の意識というよりは家庭の意識に課題があると感じた。直接家庭に働きかけることが有効だと考え、金曜日の降園時に、保護者には友達との遊びに影響が出ていることを伝え、来週から頑張ってみよう励ました。翌月曜日から8時45分に登園するようになった。母親に励ましの声を掛けたことで、家庭での生活リズムを意識して過ごせたのだろう、母親が「(幼児が)自分で早く起きたんです。」と伝えてきた。幼児もすぐ友達との遊びに入ることができ、早起きを母親に誉められたことも嬉しかったようで、その後も親子で早く登園しようと頑張る姿が見られた。

実践記録 12 感染症が流行した時の保護者への対応（3歳児）

少し調子が悪い、微熱がある、発疹が出ているといった症状への保護者の対応の仕方が様々であった。余りにせずに登園させる保護者、子どもが園に行きたがるからと熱があるのに連れてくる保護者、大事を取り過ぎて一週間休むと決めてしまう保護者などがいた。我が子を初めて集団生活に入れた保護者にとっては登園させてよいかどうかの判断はなかなか難しいことと捉え、調子が悪く遊ぶことができないようなときには欠席させた方がよいこと等を個別に伝えた。子どもの様子からの対応の判断の仕方を保護者自身が掴んでいく過程での適切な援助が大切であると感じた。



(2) 育ちを共有し信頼関係を構築する連絡帳の活用

<岩手大学教育学部附属幼稚園>

ポイント

要素A・B・C・D

(園と保護者の信頼関係・学習
や体験の機会の保障・共感的
関心・発達の見方)

◇ 家庭との信頼関係構築のツールとする

- ・事務的な連絡事項はできるだけ配付物等での確に伝え、連絡帳は保護者と担任との“子育て交換日記”的な役割を担わせ、保護者と担任が共に子どもの成長を喜び合い、一緒に子育てをするという意識を醸成し、信頼関係を構築するためのツールとする。以下の2点を工夫することで、保護者と担任のやりとりが互恵性のあるものとなるようにする。

◇ その子のよさや育ちの見えるエピソードを伝える

- ・保護者は我が子のことが心配でその子のよさが見えなくなり、藁にもすがる思いで悩み事を綴ってくることもある。そうしたときに、園で見せているその子の育ってきている部分や、よさなどを具体的に伝えていくことで、保護者が我が子を見る新しい視点を増やしたり、安心して子育てに前向きに取り組んだりできるようになる。…[実践記録13](#)

◇ 保護者に家庭での様子を綴ってもらえるよう働きかける

- ・家庭での様子を綴ってもらえるように年度当初に呼びかけたり、連絡帳を書く際「お家ではいかがですか？」という一言を添えたりなど工夫することで、家庭での幼児の姿を把握でき、幼児を園と家庭の生活の循環の中で捉えることができるようになる。それが一層担任も幼児理解を深めることに繋がり、幼児にとってふさわしい援助を可能にする。

準備・

手順

- ① 日常的に園児一人一人の様子を丁寧に見ていき、いつでも様子を伝えられるようにしておく。
- ② 連絡帳には、具体事例も盛り込みながら、たとえ問題と思われる事柄がメインの場合でも、その子のよさも伝えるようにする。
- ③ 家庭での様子も保護者に綴ってもらえるように、年度当初に連絡帳の使い方を知らせたり、返信が返ってくるような書き方をしたりする。

<保護者から>

先生のお言葉、本当に嬉しく思います。最近、朝泣いているAを見ていると、正直、私自身もどかしい気持ちになっていたのかもしれませんが。お友達は泣いていないのになあ…など思うこともあり、どうしたら泣かないで登園できるのかなと思い、車の中でAの好きなレスキューカーの話しをし、気分が上がるようにしたりなどいろいろしてみました。園の玄関で泣いてしまい…私だから泣くのかなとも思い、主人に送ってもらったりもしてみました。

けれど、先生のお言葉を聞いて、Aは今、毎日毎日小さいながら頑張っているんだなあと改めて気付くことができました。大人でも、環境の変化で戸惑うことや慣れるまで時間がかかることがあるくらいなので、私自身がAのペースをもっと理解してあげ、ゆっくり支えていけたらなあと思います。

<担任から>

家庭訪問ではありがとうございました。園ではクール(?)にしているA君の甘えんぼぶりを見ることができて、お母さんの率直な思いもお聞きできて嬉しかったです。

登園時のことはお家の方々にもいろいろと工夫いただいてありがたいです。最近では園に来たときには以前より幼稚園に気持ちを向けているような感じがするなあと思っています。一人でお家の人と離れるのは勇気がいるようですが、私が手を出すと、ずっと手をつないでくれるので、きっかけさえあれば大丈夫という気分まできているのかなと思います。お部屋では身支度が済むと本を読んだりB君とおしゃべりをしたり、お絵描きしたり…と好きなことをすぐにやり始めています。

先日降園時にちらっとお話ししましたが、とってよかった感じに楽しんでいた場面もあったんですよ！奥の滑り台のところで、C君がおままごと道具で作ったお弁当を食べようと私とごさを広げていると、A君、B君、D君、E君など、ちょうど滑り台でロケットのイメージで遊んでいた子たちも「ぼくも食べる〜♪」と集まってきました。お弁当を開けるとものすごい勢いで食べ始める子どもたち。取り合いになるかな、と心配になるくらいの勢いだったのですが、その心配は無用で、5人は「あ〜!!」と叫ぶようにしながら食べる動きを楽しんでいました。友達と「あ〜、ああ〜!!」と何度も叫び合い、声が重なっていること、もみくちゃになっていること、そういう状況がとっても楽しかったようです。A君の崩れた笑い（何と表現したらよいか難しいのですが）安心しきって、心から笑って、ちょっとおふざけモードも楽しんでいるような姿があって、とっても嬉しかったです。

こういう何気ないことで友達と心が重なるのが、友達と一緒にいる楽しさを感じることであるのかなと、A君を見て感じました。こういった経験が重なって、園で過ごす楽しさも日々かかしてきているのかなと思います。おうちでの様子はいかがですか？



(3) 保護者との信頼関係を深め、保護者の不安を和らげる組織的な援助

<花巻市立花巻幼稚園>

ポイント

要素A・B・C・D

(園と保護者の信頼関係・学習
や体験の機会の保障・共感的
関心・発達の見方)

◇ 毎日の情報共有の工夫をする

- ・どの子についても職員間では情報共有するようにしているが、特に支援の必要な子とその保護者については、綿密に副園長と担任、サポート教師で情報共有をするよう心がける。
- ・副園長は毎日の登降園の時間帯には園門や玄関に立ち、保護者と顔を合わせるようにする。挨拶しながら日常の様子をさりげなく伝えたりし、話しかけやすい雰囲気作りをする。そこで得た情報を基に担任等の職員と話し合い、援助の方向や、かかわり方について共通理解を図る。

◇ 保護者と担任、サポート教師をつなぐ

- ・上記の情報共有を基に、本児の昨年度からの様子を知っている副園長がコーディネーター役をしながら、保護者と今年度から担任になった教師がじっくり話す機会を作ったり、必要に応じてサポート教師とも話す場面を設けたりする。

* 取組の様子は次ページ…**実践記録 14**

準備・

手順

- ① 幼児の昨年度からの育ちの様子、現在の様子、保護者の思い等を園内の職員で共有する。(日々のミーティング、保育記録、要録等を活用して)
- ② 日々の保育をチームで行うとともに、保護者に対してもチームで対応する。
- ③ 一人一人の幼児、一人一人の保護者に対し、常に共感的に対応する。
- ④ 副園長がつなぎ役を意識して対応のコーディネートをする。

「母親の不安な思いを受け止め、職員につなぎ、支える」

Aは、昨年度（満4歳）からの入園である。特別な支援を必要とする幼児であるが、「マンツーマンの支援員は付かないこと、集団の中で育てること」を説明した。母親はそれを了解した上で入園を希望したので、園として、どの子も全職員で連携を図りながら見守り育てていくよう努めるので、悩みや不安は小さなことでも伝えて欲しい旨を伝えた。

<今年度4月進級当初>

母親の表情等から、進級に伴い担任やサポート教師が替わることに對する不安を抱いていることを察し、母親・副園長・新たに担任になる職員の三者で面談をし、昨年同様、全職員で見守っていくことを伝えた。

新学期が始まり、副園長は毎日の送迎の際、できるだけ玄関等で母親と会話をするよう心がける。担任も降園児にはA児の園での様子を伝え、母親から家庭での様子を聞くよう努める。母親の微妙な表情の変化から不安や悩みを引き出し、それを受け止め、小さなことも職員間で伝え合い情報を共有し合う。また、職員間でもかかわりに関する不安や悩みを出し合い、日々のA児や母親に対するかかわり方を考えていった。

<6月>

最近のAの不安定な姿を教師間で日々伝え合っていたので、母親の不安や悩みを引き出し、受け止めなければならぬと思っていたところだった。そこで、降園を待っている間のわずかな時間を逃さず、話したくなる状況を作った。

母親

副園長

先生！うちのA、やはりパニックになっています。

そうなんです…お家ではどんな様子ですか？

幼稚園のことを聞くと泣き始めるんです。あんなに大好きだった幼稚園なのに…。好きな絵もじっくり描かなくなりました。泣いている顔の絵ばかり描きます。

それは心配ですよ…

絵を描きながら話してくれるんです。新しい先生が前の先生と違う言い方をすると、先生から伝えてもらえます？「…はダメ」とか「…じゃないです」とか否定文でパニックになるんです。

Aちゃんがそう話しているんですね…わかりました。先生方に伝えますね。Aちゃん、絵を描きながらお母さんに幼稚園での話をたくさんしてるんですね。お母さんがしっかり聞いてAちゃんの思いを受け止めてくれるからなんですね。

そういえば、私がしっかり理解するまで、最後まで話すようになりましたね。

最初、副園長と話し始めたときの母親は堅い緊張した表情だったが、話しているうちに徐々に和らいだ表情になった。

そこで、その後担任と母親がゆっくり話す時間を設ける。

その後、副園長と担任・サポート教師で母親の不安や悩みを共有し、A児の姿と合わせて整理する。

<園の職員での共通確認>

○この頃のA児の姿から

- ・自らクラスの中に入るようになってきている
- ・教師や友達の会話に耳を傾け、表情や言葉で気持ちを表すようになってきている
- ・思い通りの返事が返ってこなかったり、嫌な音や言葉が聞こえると気持ちがコントロールできなくなり、大声で泣くことが多くなっている。しかし、気持ちを落ち着かせる場を自分で見つけ、気持ちを切り替えて、自らクラスに戻ってくるようになってきている

→戸惑って泣くA児の姿をマイナスと捉えるのではなく、今、壁を乗り越えようとしている成長の姿として母親に丁寧に伝えていくことが必要

<7月>

A児の嫌いな否定的な言葉へのかかわりの様子をサポート教師が伝える

<具体的なエピソードと教師のかかわりを母親に伝える>

5歳児が、A児が暑くてスカートを自分でまくり上げたのを見て「恥ずかしいよ!」と注意したことを、A児はサポート教師が注意したと受け止め、「恥ずかしいって言わないで!」とサポート教師に何度も訴える。サポート教師は、「私は言っていないよ。お姉さんが教えてくれたんだよ。」と話す。なかなか理解できない様子でさらに「恥ずかしいって言わないで!」と訴えるので、「Aちゃんは暑いからスカートをまくったんだよ。でもパンツが見えるから恥ずかしいよってお姉さんはやさしく教えてくれたんだよ。」と丁寧に伝える試みをした。サポート教師は母親に「私にも言われているような、悲しい気持ちになったのでしょね。でもゆっくりお話しすると、涙を拭いて『パンツが見えると恥ずかしいの?』と尋ねてきました。Aちゃんなりに何か気づけたのかなと思いました。」と伝えた。

母親

こうして一生懸命、丁寧にかかわってくださっていることがよくわかりました。とても嬉しいです。

副園長

様々な先生方の、いろいろなかかわり方に対して、Aちゃんは一生懸命向き合っていましたね。思い通りの言葉が返ってこないで泣いたけれど、どうしたらいいか考えたんですね。こうして世界を広げていっているんですね。

数日後、A児の描いた絵とつぶやきを構成した母親との手作り絵本「ぷるるんももちゃん（自分のこと）～だいすきようちえん～」をもらった。その後、何作も見せてもらう。

母親に「Aちゃんとお母さんの会話の様子や、Aちゃんの興味関心の向け方、思考の仕方等を知り、気持ちに寄り添えたような嬉しい気持ちになった」と伝えると母親は穏やかな笑顔になった。

<9月>

担任から、A児の母親が、運動会の時に笛や音楽の音が大きいとパニックになるので、耳栓を考えているという情報が入った。そこで、降園時に話しかける。

母親

え～？じゃあ、耳栓はなくていいんでしょうか。パニックになったら大変と、持ってこようと思っていたんです。

えっ!?自分から並んだんですか?

そうなんですか!嬉しいです。担任の先生から詳しく聞きますね。ありがとうございました。

副園長

Aちゃん、初めは「やらない!」と言って遠くに座っていたのに、音楽が鳴り出したら自分からみんなの所に走ってきたんですよ。一緒にやりたいていう気持ちが伝わってきて、先生方と喜んでました。

どうするのがAちゃんにいいのか、一緒に考えていきましょうね。

かけっこのとき、サポート先生の声掛けで自分から並んでいましたよ。自分の番になったら、耳に手を当てて「よい、ドン!」と言って笑顔でかけていきました。詳しくは担任の先生に聞いてみてくださいね。

その後、担任と笑顔でゆったり話して帰る。

<別の日>

母親

先生、この頃また、すごいパニックで、手が付けられません。絵を描こうとして途中でやめちゃうんです。怒ったり泣いたりしている絵なんです。運動会の練習で、よっぽど疲れているんでしょうか。

そうなんですネ…うちの子だけじゃなく、みんな、なんですネ。なんかほっとしました。ありがとうございます。

副園長

運動会の練習は、勝ったり負けたり、喜んだり悔しがったりして、泣きたくなる子もいます。Aちゃんだけでなく、どの子もいろいろな思いをしていますね。

並んで歩いたり、自分の番を待ったりもします。みんなと一緒にしたいから、楽しいから気持ちをコントロールして頑張っているんですね。

楽しくて気持ちが興奮して疲れることもあります。頑張っているんだなあと受け止めてあげましょう。

このように毎朝、そして降園時、自ら副園長や担任と会話を交わすようになる。

<副園長所感>

今もみんなと少し違う行動をする我が子に戸惑ったり、落ち込んだりする母親であるが、自分の揺れ動く思いや考えを自ら率直に職員に話し、Aの成長を共に喜び合えるようになってきている。

職員間で毎日逃さず情報交換をし、それぞれの立場や役割で支えないながらチームで保育を展開していこうとしてきた成果である。

副園長という立場で、母親と担任やサポート教師をつなぐ役、そしてそれぞれを支える役になれるようこれからも努めたい。



4 居場所・交流型支援

支援の例

- 園内サークル
- 保育参加後のミーティング
- 茶話会
- 談話会
- 保護者会 等



保護者にとってのメリット

- ・ 保護者の仲間づくりの場となります
- ・ 保護者同士の共感性が高まります
- ・ 他の保護者の考えに触れ、保護者同士の学び合いが可能になります
- ・ サークル活動を保育に生かすことで、園とともに幼児を育てる実感が得られます
- ・



支えとなる保育の質を保つための視点

- ・ 個々の幼児の姿の見取りとそれに対する保育者の適切な見解があること
- ・ 幼児の見取り方が深まるような園内での取り組みがあること

チェック

- サークル活動や茶話会などで保護者の主体性が発揮できるような仕組みが構築されているか。
- サークル活動等は、園児に還元できる内容のものが行われているか。
- 保護者会のグループ等でのディスカッションでは、テーマを設けて話しやすくしたり、グループ編成の工夫等をして話し合いを活発化させているか。
- 結論をまとめようとせず、様々な保護者の自発的な語りを大切にしているか。

(1) 保護者の主体的な取組を促し、子育ての喜びの実感につながる茶話会

<花巻市立花巻幼稚園>

要素A・B

(園と保護者の信頼関係・学習
や体験の機会の保障)

ポイント

◇ 気軽に話ができる場の提供

- ・普段顔を合わせていても挨拶程度のやりとりしかできないでいる保護者同士が、日常の子育てに対する思いや疑問、悩みなどを語り合い共有することで、子育ての意義を再確認したり、様々な考え方に触れ、視野を広げることで子育てに前向きに取り組めるようになることをねらい、3回設定する。
- ・1回目は保護者同士が気軽におしゃべりすることで親しくなり、互いに相談したり助け合ったりできる関係作りにつながるよう留意して実施している。

◇ 参加してみたくなるメニューの用意

- ・第2回、第3回には、おしゃべりだけでなく、講話やワークショップなど、参加してみたい、参加してよかったと思えるようなメニューを用意し、さらに話題が膨らむような仕掛けをする。

…[実践記録 15](#)

◇ 保護者の主体的な取組の促し

- ・ねらいと期日等、骨組みとなる部分については園で年度当初に提案するが[資料 23](#)、会のお知らせや細かい進め方等は保護者に委ね、保護者が主体的に取り組めるようにすることで、満足感や充実感が味わえるようにする。…[資料 24](#)
- ・当日参加できなかった保護者のために、話題になった事項についてクラス委員がまとめ、保護者に配付しているが、これもクラス毎の自主的な取組で、形式等もクラス委員がまとめやすい形で発行している。…[資料 25](#)



準備・

手順

- ① 年度当初に園から案内文書を発行し、保護者に見通しをもたせる。
- ② クラス委員が中心に、自分たちがやりたいと思うことと、園の方針をすり合わせ、必要に応じて副園長等に入ってもらいながら主体的に進められるようにする。
- ③ 行った内容が広く周知できるよう工夫する。

資料 23 子育て茶話会の案内文書（園発行）

平成 27 年 4 月 27 日

保護者各位

花巻市立花巻幼稚園
園長 高橋 公洋

『子育て茶話会&給食参観・給食试食会』のご案内

幼稚園生活が始まり 2 週間ほど経ちました。お天気にも恵まれ、子ども達は広い園庭を駆け回ることが楽しくてたまらないようです。

さて、本園では、保護者間のつながりを深めていく場の一つとして『茶話会』を行っています。『保護者同士が親しくなることで、子育ての悩みや不安を話し合ったりし、互いに助け合い、支え合うことにつながる』『自分の子ども以外のお子さんの様子を見聞きし、子育ての一助になるお話を聞くことで、子育てを楽しく感じられる』その手助けになればと思っています。

今年度は特に「食育」について、理解を深め合いたいと考えています。そこで、第 1 回目の『茶話会』の日に『給食参観・給食试食会』も併せて行うことと致しました。

下記の日程で開催したいと思いますので、お気軽にご参加下さい。

記

1 月日 下記予定表の通り

2 時間 『茶話会』9 時 15 分～11 時半（準備等は 8 時半から始められます。）
※第 1 回『茶話会』後のみ、『給食参観』11 時半～12 時 20 分
『給食试食会』12 時 20 分～13 時 20 分（アンケート記入を含む。）

3 場所 風見鶏の部屋または遊戯室（クッキング等実技がある場合、まなび学園）

<予定表>

	組	月 日	内 容 (テーマ)
第一回	ゆり組	5 月 19 日 (火)	副園長及びクラス委員のリードのもと、情報共有を図り、互いを知り合う
	ばら組	5 月 22 日 (金)	
	つき組	5 月 15 日 (金)	クラス委員のリードのもと、親睦を図ると共に、今年度の組の動きに対しての要望等を語り合う
	ほし組	5 月 29 日 (金)	(必要に応じて副園長、担任が入る)
第二回	ゆり組	9 月 1 日 (火)	クラス委員のリードのもと、テーマを設けて親睦を図る
	ばら組	9 月 3 日 (木)	(必要に応じて副園長、担任が入る)
	つき・ほし 合同	9 月 16 日 (水)	講師を招いて、食育に関するお話を聞く (小学校の栄養教諭、栄養士など)
第三回	ゆり・ばら 合同	11 月 6 日 (金)	講話&ワークショップ…お手軽朝ごはんレシピ講習会
	つき・ほし 合同	11 月 13 日 (金)	講話&ワークショップ…手作りおやつ講習会

※ 第二回、第三回は、講師の都合により変更となる場合がありますので、毎月の園だよりでご確認下さい。

※ 第二回茶話会の初めに、昨年度好評だった、園長の「1 学期の子どもたちの園生活」のスライドショーがあります。

平成27年8月25日

ばらくみ保護者の各位

ばらくみ クラス委員
伊藤・鳥居・濱田

ばらくみ 第2回茶話会のご案内とお誘い

1か月の夏休み、皆様いかがお過ごしでしたか。元気な子ども達の声に気持ちがほっこりしますね。
さて、2回目の茶話会は、軽く自己紹介をしたり(途中入園の方もいるので)、夏休みの過ごし方やこれからの行事について話し合ったりしながら、たくさんおしゃべりをして交流を深めたいと思っています。
風見鶏の部屋でざっばらんにお話できる茶話会は、今回で最後です(次回はクッキングを予定)。途中参加や小さいお子様連れの参加も歓迎です。皆様の参加をお待ちしています！

記

1. 日 時 9月3日(木) 9:15~11:00
2. 場 所 風見鶏の部屋(園門入って左の建物です)
3. 持ち物 筆記用具(メモ程度) ※飲み物はご持参ください
4. 内 容 ①1学期の園生活を振り返って(園長先生の講話とご自身撮影の写真上映会)
②自己紹介
③楽しく懇談
④副園長先生からのお話
(その後、希望者は)お昼ごはん&おしゃべり

※会場準備のため、出欠をお知らせください。下記へご記入の上、今週28日(金)までに担任まで提出をお願いします。

※茶話会が終わっても風見鶏の部屋は借りています。よかったらお弁当などを持参して引き続きお話していきましょう。

キリトリ線

茶話会(カッコ内に○を記入してください)

参加します() 欠席します()

園児名 _____ 参加する保護者名 _____

入園してみても心配事・気になること、茶話会でこんな話がしたい、欠席だけどメッセージ etc...
遠慮なくお書きください！(話題があると委員が助かります~^^♪)

★第2回ばら組茶話会報告★

H27.9.7(A)

さる9月3日無事茶話会が終了しました。総勢18名の参加。おおい... 20人以上参加予定だったはず... というのは、皆さん体調不良のため!! ママ自身だったり、息子・娘だったり... 皆さん! この長雨は気を付けましょうね! 特に咳症状を良く耳にしますよ~! それでは、以下ご報告です。



園長講話

スライドショーをみなから園長先生のあじ、お忙しい中、園生活がよく分かる細かい説明入りのものを作って下さいました。私が心に残っているのは「共育」という言葉。親子一緒に成長してこそ喜びも増えそうですね。



夏のおかれ様でした

今回歓談のテーマは『夏の住ごし方』。みなさん暑い夏をなんとかがり切り(ぼっ)しましたね。さて、どんな過ごしかただったかというところ...
 ・学校のプール、家のプール、市民プール、お風呂!!
 図書館、キャンプ、BBQ、実家へ帰省、夏祭り
 宮野目の支援センターでスイカ割り(100人で2玉は少ない!!)
 兄・姉の友達の家で遊び場が我が家になっちゃった!!
 ママ1人で子ども3人を連れて動物園に行った!!
 あんまり暑い時間はテレビ漬けになりました...
 暑いから早起きして活動させた!!
 いとこや親せきに会えていい時間を過ごせた etc..

副園長先生より

ばら組の子ども、親さん方とともあったか~いと担任も言っていました。これから運動会練習が始まります。競争なので勝ち負けがあるわけで、子ども達は色んなものを抱えて帰るかも...。ぜひその温かさを伝えてあげて下さい。何かが気になることがあったら職員まで教えて下さいね。フォローしていきたいと思っています。

クラス委員的



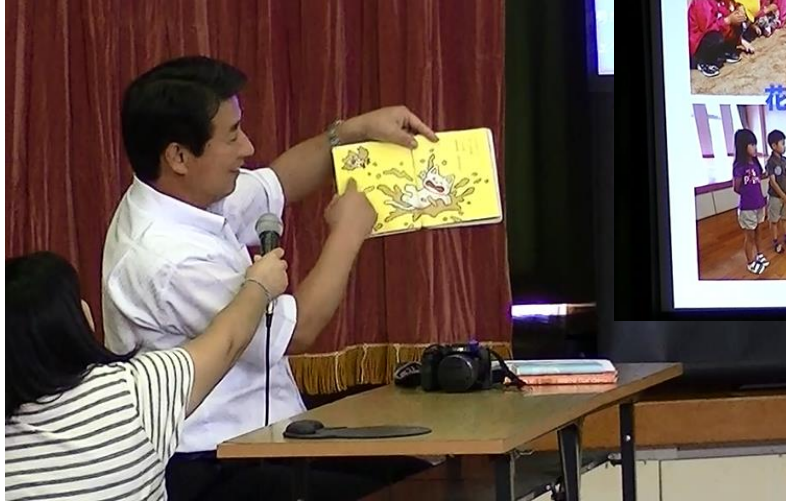
ちえきら、ちえー♪ CHECK IT OUT

- これから園生活で知っておいてほしいこと!!
- 運動会 → 親はうな引き、祖父母は玉入れへの参加者募集!! 協力期待してます!!
→ 白を基調としたシャツを着用します(子ども)
→ 子どもへのサプライズで親がメダル作り
- 秋遠足 → 今年に親の参加なしで、子どものみ予定
- 11月頃から → クリスマスコンサート練習開始
研修部企画です。有志求みます!!
- 発表会 → 兄弟学級毎に開催。モチちゃん、両日出演したり、1日のみだったり...
- 衣替え → 園指定のニット帽への切り替えは、寒いと感じたら(笑)
ジャンプスーツ(スキーウェア)を着て登園
ブーツでなく長靴推奨(ソリの時みかみ)
- 暖飯 → 冷たいご飯を温めるので、パッキン付きの容器はNG!! 湯が開かなくなる...
もっと詳しく聞きたい方は速速なく委員までどうぞ~♪

- 募集していた広報委員は、残念ながら引き継ぎの申し出が聞こえませんでした。快く、1人で大丈夫ですよ、と言って下さった H 君にありがとうございます。
- 新しい連絡網が配られた人がいます。(配られていない人は以前と連絡先が変わっていないようです) 連絡をくれる人の連絡先を知りたい場合は、当人同士で交換して下さい。園の連絡網、欠しのLINEは別ものなので、連絡網はしかり次の人へよろしく!!
- 老朽化した木のお家を新しく作ってくれる人を探しています。予算は3万円程度...。こちらは専ら局の T. さん (K. ちゃんママ) まで。

実践記録 15 第2回年長組茶話会の様子（9月16日）

- ① 園長が園の教育内容と1学期の様子についてスライドを交えながら紹介
- ② 園長が『生きる力』の土台づくり」と題し、講話



- ③ 小学校区に分かれての就学に向けての情報交換



通学路はどうやって覚えさせたらいいのかな？

上の子のときは、春休みに何回か親子で歩いてみたよ

※各グループには、園長・副園長・研修指導主事が入り、適宜助言をした。



(2) 子どもの成長や子育てを振り返る機会となる

誕生会・談話会

<岩手大学教育学部附属幼稚園>

ポイント

要素A・B・C・D

(園と保護者の信頼関係・学習
や体験の機会の保障・共感的
関心・発達の見方)

◇ 子どもの成長を実感する誕生会

- ・毎月、その月の誕生児を園全体で祝う。誕生児の保護者も参加し、誕生児と一緒に全園児や職員から祝ってもらうという、年に一度の節目の機会を設けることで、我が子の成長を実感できる。
- ・誕生児に向けて、保護者にあらかじめカードを渡してメッセージを書いてもらい、クラスでの誕生パーティーの時に紹介して渡す。誕生児も、改めて保護者の愛情を感じる機会となる。

◇ これまでの子育てを振り返る機会となる談話会

- ・誕生会後に、誕生児の保護者と園長・副園長で談話会を行う。園長や他の学年の保護者と一緒に話をする貴重な機会。誕生会同様、年に一度我が子の誕生月にあることで、我が子の育ちと併せてこれまでの子育てを振り返る機会となる。…**実践記録 16**

準備・

手順

- ① 誕生会・談話会について配布物で大まかな内容を周知しておく。
- ② 保護者に誕生日のメッセージカードを書いてもらい、誕生会当日に誕生時に渡せるように準備しておく。
- ③ 談話会に参加の副園長は、誕生児の成長の様子や具体的なエピソードなどを話題にできるよう準備しておく。



<年長児保護者>

- ・3, 4, 5歳児が並んで座っている様子をステージ前から見たら, 2年前はこんなだったんだ, と振り返り, 5歳児の成長を感じた。それに比して親の自分はどうかだろう…。
- ・年少・中時代は母にくっついて離れなかったが, 今は, 具合が悪くても行きたいというくらい幼稚園が好きになった。
- ・友達とうまくかかわれるか心配していたが, 友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようになってきた。
- ・好きな遊びは?とか将来なりたいものは?とか答えが一つではないことを聞かれるのが苦手な子だったが, 年長組皆で行ったことも科学館でのプラネタリウムに心惹かれたようで, 将来宇宙にかかわる仕事をしたい, と自ら選び取ることができたことに感動。本にもあまり興味を示さない子だったが, 星の本は読んでみたいと手に取るようになった。園の働きかけによる刺激って大きいなと感じた。
- ・友達関係が深まってきたことで, 単純な遊びも, いい意味でライバルのようにして, 友達と工夫して面白くしていると感じる。

<副園長>

- ・園での体験が興味関心の幅を広げたり, 成長のきっかけになったりしているといった話が出たが, こういった共通の体験を友達と共有して遊びを作っていくのも年長組ならではの姿である。そして, そうやって友達と遊ぶ姿に, 人間関係の温かさも感じられる。

<年中児保護者>

- ・この夏休みは下の子が生まれたばかりだったので, 友達と一緒に体を動かしたい息子にとってはそれがかなわない状況だったが, 姉に教えてもらってひらがな, カタカナを一気に覚え, 友達に手紙を書いた。友達と遊ぶ楽しさを園に入って知った様子。これからも人とのかかわりの点で成長して欲しい。
- ・製作が好きになり, 園の材料を持ち帰ってきて作ったりしている。
- ・さんさ踊りは印象的な体験になった様子。パレードが終わっても, 至る所で踊っている。お店の中を移動するときも, 家の中でトイレに行くときも。来年も楽しみたい。

<副園長>

- ・年中児は想像の世界の住人。ごっこの世界を楽しむ姿がたくさん見られる。また, 製作するということは, 自分の想像の世界を形にしていく作業。こうなりたい, こうしたい, という意欲を高めていくのが幼児教育。覚えたい, と思ったら教え込まなくても文字を1日で覚えてしまうように。

<年少児保護者>

- 今日この場で話をするために、昨日改めて我が子について振り返ってみた。この会が子育てを振り返るよい機会となっている。
- 自分で何でもやろうとするようになった。自立してきている。
- 人とかかわりの中で、ぶつかることがあった。わがままなのだろうかと悩んだりした。
- 入園当初は登園を渋ったり、初めてのことに一步踏み出せずかなり慎重なところがあったりして心配した。ぎゅっと抱きしめてから登園していた。保育参加で見たときには心から楽しそうにしている安心した。
- 夏休みに、母と離れていそこ達と寝ることに挑戦した。昼間は強がって頑張っていたが、夜になると一人で床についたものの肩をふるわせて泣いていて、最終的には母と寝たが、一連の出来事から成長を感じ、嬉しくもあり寂しくもあった。

<副園長>

- トラブルがあると悩んでしまいがちであるが、3歳の子どもたちを見ていると、皆それぞれ勝手に遊んでいるように見えながら、他の子の様子を見ているし聞いていて、意識できている。この時期は、「仲良く」とか自分を抑えて周りに合わせることに重きを置くのではなく、まず一人一人が自分を出せることを大切にしていきたい。自分を出して、相手とぶつかって「あれ？相手が泣いている、悪かったかな」と自分で気付いていくことが大切。余り心配せず、見守っていくことを大事にした。
- 入園当初は初めての集団に入り、緊張していたと思うが、友達とのつながりが感じられるようになってくると、慎重だった子も〇くんみたいにしてみたい、といったように新しいことに挑戦する勇気が出てくる。今、自分から積極的に人やものごとに働きかける様子が見られる。

<園長>

- 「成長」がキーワードの談話会だった。自分の娘が3、4、5歳の時に、自分（園長）の誕生日にプレゼントとして自分の絵を描いてもらった。年を経る毎に、絵自体はさほど上手になっている訳ではないが、描きたいこと、表現したいことがすごく変わってきている。同じ小さな画面の中に、表現したいことをたくさん盛り込みたい、5歳の時には文字までもという思いが伝わってくる。そういった表現したい思いを何かの形で出せるような仕掛けをするとよいのではと思う。また、園での作品等も写真に収めて保存することをおすすめしたい。5年後、10年後に宝物になる。
- 「ぎゅっと抱きしめる」ということも話があった。親は緊急避難基地。抱きしめることで安心して再び新たなことに向かっていける。ぎゅっと、も小さいうちだけ。大きくなったらできなくなってくる。



保護者の声

「談話会は最も楽しみにしていることのひとつです。子育ての1年を振り返ることができ、園長先生、副園長先生、そして他のお母様方のお話を聞くのもとても充実した時間です。」

「談話会で、他学年の保護者の方、園長先生、副園長先生と話す機会があり、悩みに対する考え方など大変勉強になりました。誕生会以外でもテーマを決め、少人数で話し合える機会があったら嬉しいです。」

副園長の考察（成果と課題）

- * 談話会という機会があることで、改めて我が子の育ちや自分の子育てについて振り返る機会になり、意義を感じている保護者の方が多いのではないかとと思う。
- * 多様な保護者の子育ての仕方、考え方に触れる機会になっている。多様な意見に触れ、自分を見つめ直したり、他者の子育ての喜びや悩みに触れて共感したり、ヒントを得たりするなどして、改めて子育ての意義を感じたり意欲が湧いたりする機会となっている。
- * 園長・副園長、そして他の学年の保護者を前に緊張することもあるようだ。できるだけ緊張せず、話しやすい雰囲気をつくるよう心がけているが、もっと保護者同士でレスポンスし合う状況が生まれると、より話し合いが深まるのではないか。



(3) 保護者同士が交流し、つながる場としての クラブ活動

＜岩手大学教育学部附属幼稚園＞

要素B・C・D

(学習や体験の機会の保障・共
感的関心・発達の見方)

ポイント

◇ 保育時間中を利用し、保護者が自主的に活動

・本園にはコーラス・人形劇・絵本・絵画・さんさ踊りの5つのクラブがある。どのクラブもほぼ週1回、保育時間中に活動を行っている。小さな子を連れていてもできる活動で、登園したらそのまま活動場所でクラブ活動を行い、その後降園時刻に合わせて活動を終了するという流れなので、無理なく参加できる。各クラブで年度初めに参加者を募集する。…資料26

◇ 活動の成果を保育に還元

・それぞれのクラブが、誕生会での発表や、作品の展示、さんさパレードの園児指導と参加等活動の成果を園の保育に還元している。

準備・

手順

- ① 各クラブ長と園とで大まかな約束事を確認しておく。
- ② 各クラブの活動日や活動場所を決め、活動の方針や活動計画を立てる。
- ③ 園の行事とどこでタイアップできるかすり合わせをする。
- ④ 部員が活動しやすいように、柔軟な活動内容とする。



平成27年4月24日

岩手大学教育学部附属幼稚園

保護者各位

岩手大学教育学部附属幼稚園

PTA コーラスクラブ



コーラスクラブ部員募集のご案内

ご入園、ご進級おめでとうございます。

コーラスクラブでは、年2回のお誕生会での発表と、ヴィラ加賀野への訪問発表に向けた練習を中心に活動しています。お誕生会では、子供たちに喜んでもらえるような曲を、楽器や小道具を交えながら楽しく歌っています。一緒に歌ったり踊ったりしてくれる子供たちの姿を近くで見ることができ、やりがいもあります。

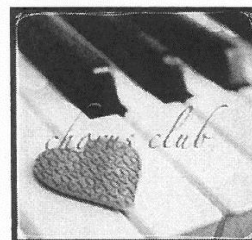
私たちと一緒に、素敵な「うたのプレゼント」をつくってみませんか？

小さいお子様がいらしても、一緒にできる活動です。見学の方、入部とはいかななくても、お手伝いなら・・・という方も大歓迎です。

どうぞお気軽にいらしてください。お待ちしております。

♪ 活動日 : 月曜日 登園～お迎えの時間まで

♪ 活動場所 : 加賀野児童センター



※活動日と場所の詳細は、幼稚園玄関にあるホワイトボードをご覧ください※

----- きりとり -----

コーラスクラブ入部申込書

----- 組 -----



お子様氏名.....

ご本人氏名.....

※担任の先生かコーラス部員へ提出をお願いします。



保護者の声

- * 親も人のつながりで安心する。園を通して皆の親の目で子どもたちを見てもらえる、そういうつながりがもてる機会であり有意義。
- * 自分自身が充実し、親の頑張る姿を見せられた。
- * 「やればできる」と自信になった。子どもの笑顔にやりがいを感じた。
- * 学級を越えて仲良くなり、クラブ活動以外でもいろいろ助け合ったりできるのがよい。

こんないいこと！

- 希望する保護者が主体的に取り組む活動なので、一人一人が生き生きと活動している。誕生会での人形劇クラブの発表では、おおかみの登場に年少児が泣いてしまうといったハプニングもあったが、それも含めて子どもたちの反応がとてもよく、演じる保護者も観る園児も一体となって劇を楽しんでいる様子が伝わってきた。
- 活動の成果を保育に還元し園児の喜ぶ顔を見ることで、保護者はまた頑張りたいと意欲が湧くようである。幼児も自分の母親が活動していることを喜んだり、家庭で話題にしたりと、園での共通体験が親子のコミュニケーションの一助にもなっている。
- 活動の成果を保育に還元することが、園の教育に保護者も参加しているという意識を醸成し、園の教育への関心が高まる。
- クラブ活動の中で、子育てにかかわる情報を共有したり、先輩の母親からアドバイスを受けたりすることで、子育てに対しての多様な見方を得ることができる。
- クラブで他の保護者と親しく活動する中で、互いに支え合ったり助け合ったりする関係が育まれていく。



引用文献および参考文献

【引用文献】

- 太田光洋（2002），「“子育て支援”とは何かー子育て支援センター活動へのかかわりを通して」，『保育の実践と研究 6－4』，スペース新社保育研究室，pp. 28－29
- 大豆生田啓友（2006），『支え合い，育ち合いの子育て支援』，関東学院大学出版会，pp. 43－44
- 柏女霊峰（2003），『子育て支援と保育者の役割』，フレーベル館，pp. 28－29
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2014），『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館，p. 12
- 文部科学省（2008），『幼稚園教育要領』フレーベル館，p. 16
- 文部科学省（2008），『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，p. 26，p. 236

【参考文献】

- 井桁容子（2015），「親が育つとき」，『幼児教育じほう 6月号』，全国国公立幼稚園・こども園園長会
- 伊藤良高（2014），『教育と福祉の課題』，晃洋書房
- 大豆生田啓友（2014），「新制度時代の保育の場における子育て支援の展望と課題」，『発達 140』，ミネルヴァ書房
- 大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編（2014），『よくわかる子育て支援・家庭支援論』，ミネルヴァ書房
- 蒲原基道・小田豊・神長美津子・篠原孝子編著（2006），『幼稚園・保育所・認定こども園から広げる子育て支援ネットワーク』，東洋館出版社
- 那須信樹（2014），「幼稚園における日常的な保育実践の可視化による『子育て支援』の実際～在園児保護者との日常的な連携を中心に～」，『保育の実践と研究 18－4』，スペース新社保育研究室

【引用 Web ページ】

- 子育て支援に関する研修プログラム作成協力者会議（2008），『幼稚園における子育て支援に関する研修についてー研修プログラム作成のためにー』，文部科学省
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2009/03/16/1258023_1.pdf
- 中央教育審議会（2005），『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013102.htm
- 中央教育審議会（2015），『中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会における論点整理』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm

おわりに

この事例集作成に当たり、ご協力いただきました研究協力園の先生方、園児とその保護者のみなさんに心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力いただきました先生に感謝申し上げます。

《研究協力園》

盛岡市立太田幼稚園

花巻市立花巻幼稚園

九戸村立幼稚園ひめほたるこども園

岩手大学教育学部附属幼稚園

花巻市立湯本保育園

《研究協力員》

花巻市教育委員会 指導主事 福岡 喜久子

《総合教育センター作成担当者》

教科領域教育担当 研修指導主事 吉田 澄江

教科領域教育担当 研修指導主事 新沼 健

親と子が共に育つ子育ての支援事例集

平成28年3月

岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当

〒020-0395 岩手県花巻市北湯口2-82-1

TEL 0198-27-2735

